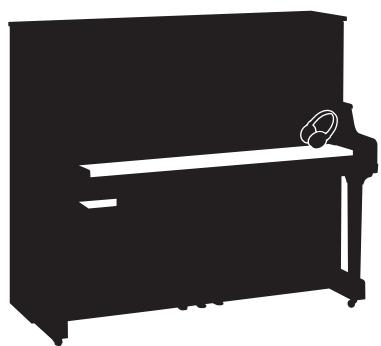


TransAcoustic™

TA2



取扱説明書

ご使用の前に必ず4~7ページの「安全上のご注意」をお読みください。

ごあいさつ

このたびは、トランスマコースティック™ピアノをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この製品は、鍵盤機構などの基本的な部分はアコースティックピアノでありながら、必要なときに音量を調節し、音色を変えたり録音したりして、充実した機能を楽しめます。本書では、トランスマコースティックピアノとして搭載されたこれらの機能を中心に説明します。本機に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いします。

取扱説明書について

本機には、以下の説明書が用意されています。

■ 冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

トランスマコースティックピアノ特有の機能や使い方を中心に説明しています。アコースティックピアノとしての取り扱いについては、別冊のピアノの取扱説明書(機種共通)をご覧ください。

■ 電子マニュアル(PDF形式)



スマートデバイス接続マニュアル

この楽器をスマートフォンやタブレット端末などと接続する方法を説明しています。iOS用とAndroid用がありますので、お使いのデバイスに合わせてご覧ください。



コンピューターとつなぐ

本機とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。



MIDIリファレンス

本機のMIDIに関する資料を掲載しています。

これらのマニュアルは、ヤマハの下記ウェブサイトからご覧いただけます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

付属品(お確かめください)

- | | |
|-------------------|----|
| ・取扱説明書(本書) | 1冊 |
| ・ヘッドフォン | 1本 |
| ・ヘッドフォンハンガー | 1個 |
| ・ヘッドフォンハンガー取り付けネジ | 2本 |
| ・楽譜集「クラシック名曲50選」 | 1冊 |

このほかにも各アコースティックピアノに同梱されている付属品があります。
別冊のピアノの取扱説明書でご確認ください。

目次

ごあいさつ	2	5章 ほかの機器と接続する	49
取扱説明書について	2	USB機器を接続する	49
付属品(お確かめください)	2	ほかのオーディオ機器と接続する	51
安全上のご注意	4	ほかのMIDI機器と接続する	53
注記(ご使用上の注意)	8	コンピューターやスマートデバイスと 接続する	54
本機の特長	10		
1章 はじめに	11	6章 その他の機能を使う	58
各部の名称	11	設定を工場出荷時の状態に戻す	58
電源を入れる/切る	14	ファイル名に対応する文字種の設定をする	59
ヘッドフォンを使う	15		
2章 演奏する	16	7章 資料	60
電子音を鳴らして演奏する (トランスマコースティックモード)	17	メッセージ一覧	60
アコースティックピアノの音に電子音を 重ねて演奏する(レイヤーモード)	18	故障かな?と思ったら	62
消音して演奏する (サイレントピアノモード)	19	音色一覧	64
音色を選ぶ	20	ソング一覧	66
3章 曲(ソング)を再生/録音する	22	USBフラッシュメモリーのソングファイル の再生順序	68
ソングを再生する	22	仕様	69
ソングを録音する	26	索引	71
ユーザーソングを操作する	28	保証とサービスについて	74
4章 便利な機能を使う(UTILITY) ..	32		
メトロノームを使う	32		
音に残響を付ける(リバーブ)	34		
本機の機能を設定する (ファンクション設定)	36		

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
   	～しないでくださいという「禁止」を示します。
  	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

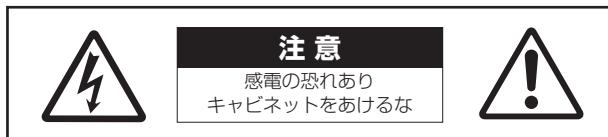


注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

! 警告

電源 / 電源コード



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



お手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

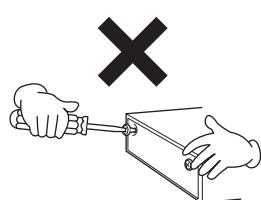
感電のおそれがあります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



設置



医療機器の近くで使わない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。電波の使用が制限された区域では使わないでください。



心臓ペースメーカーの装着部位から 15cm以上離して使用する。

本機が発生させる電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なにおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード

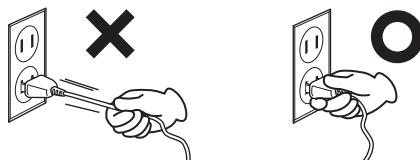


たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



本体の放熱ファンや放熱用スリットに本などを置いて、ふさがない。

本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



本体を壁につけない。

換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。壁から3cm以上離してください。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



本体を移動するときは、手や足を挟まないようにする。

けがをするおそれがあります。



必ず実行

本体を移動するときは、ゆっくりと丁寧に行なう。

本体が転倒したり、周囲のものと衝突したりするおそれがあります。本体の運搬、移動は専門の業者に依頼することをおすすめします。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

鍵盤蓋や本体のすき間に手や指を入れない。また、鍵盤蓋で指などをはさまないように注意する。

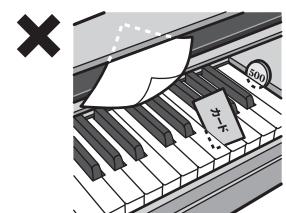
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

本体の開口部や鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドフォンを用いる場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



必ず実行

使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行なう。また、自分の周りの方が不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。

鍵盤蓋に手や指を挟み、けがをするおそれがあります。



必ず実行

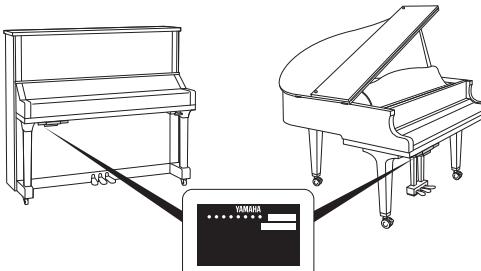
地震のときは、本体から離れる。

地震による強い揺れで本体が動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



銘板はコントロールユニットの底面にあります。

(bottom_ja_02)

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[**Off**] (スタンバイ / オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。

[**Off**] (スタンバイ / オン)スイッチが切れている時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone/iPadなどのスマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- ・直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- ・本体を移動するときは、引きずらないでください。床を傷つけるおそれがあります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- ・塗装面の表面にほこりが目立つ場合はピアノ用毛バタキ〈別売〉、または、柔らかい布(付属品など)で軽く拭きとってください。表面に汚れが目立つ場合は水をしみこませて固くしぼった柔らかい布で汚れを拭きとった後、乾いた布でカラ拭きしてください。市販の各種洗剤や外装手入れ剤は、塗装面を変質させひび割れなどの原因となりますので使用しないでください。また、化学雑巾は使わないでください。表面の艶がなくなってきた場合は専用の外装手入れ剤を含ませた布でムラなく拭きあげてください。
- ・鍵盤の汚れは水をしみこませて固くしぼった柔らかい布で汚れを拭きとった後、乾いた布でカラ拭きします。外装の塗装面を拭いた布には、ユニコンなどが付着していますので、鍵盤のお手入れには使用しないでください。市販の各種洗剤やアルコール・ベンジンなどは、鍵盤表面のひび割れの原因となりますので使用しないでください。ピアノキークリーナー〈別売〉の使用をおすすめします。詳細は別冊のアップライトピアノ/グランドピアノ取扱説明書の「ご家庭でのお手入れについて」をご覧ください。
- ・極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- ・この楽器に録音したMIDIソング(26ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターなどの外部機器に保存してください(54ページ)。
- ・データを保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ・ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されません。

※ 上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

※ 上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- ・内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・iPhone、iPad、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・AndroidはGoogle Inc.の商標です。
- ・Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

 Bluetooth®

- ・MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ Bluetoothに関するお知らせ

● Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

● 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行なうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

無線に関する注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

本機の特長

・シーンに合わせて音量や音色を変更し、ピアノ演奏を楽しめる

ヤマハ独自のトランスマコースティック™技術により、アコースティックピアノならではの音色や演奏性能はそのままに、音量の調整や音色の変更を実現(トランスマコースティックモード)。また消音してヘッドフォンで音を聞きながら演奏ができるサイレントピアノ™モードも搭載しています。周囲の人だけに聞こえる音量で演奏を楽しんだり、消音して自分だけの世界で練習に集中したり、さまざまな音色で演奏したり、ピアノ演奏の楽しみが大きく広がります。

・アコースティックピアノならではの自然な演奏感

トランスマコースティックモード時は、トランスマコースティック™技術により、響板全体を広く振動させることで弦やピアノ本体が共鳴し、アコースティックピアノならではの自然な演奏感が得られます。またサイレントピアノ™モード時でも、バイノーラルサンプリングなどの技術により目の前のピアノから音が響いているかのような臨場感が楽しめます。

・多彩な表現を可能にするリアルな響き

きらびやかな高音から重厚な低音まで、幅広い芳醇な音色を特徴とするヤマハ最高峰ピアノ「CFX」。繊細で温かみのあるワインナートーンで知られるベーゼンドルファー社*の「インペリアル」。これらをはじめとした魅力的な20種類の音色を搭載しています。またトランスマコースティックモード時は、どの音色で演奏しているときでも弦やピアノ本体が共鳴し、豊かな響きをお楽しみいただけます。

*ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。

・アコースティックピアノならではのタッチで表現ができる

演奏情報を検出するセンサーは、どこにも接点がない非接触式のため、タッチに影響を与えません。鍵盤の動きを常に細かく検出し、演奏者の表現を忠実に再現します。

・ピアノに溶け込むデザイン

コントローラーのデザインを一新、ピアノに溶け込む優美なデザインを実現しました。操作もシンプルでわかりやすく、簡単に操作できます

・いつでも音楽を楽しめる録音/再生機能

ご自身の演奏を内蔵メモリーやUSBフラッシュメモリーに録音し、再生できます。録音した演奏を客観的に聞き返すことができ、上達につながります。

また、本機にはBluetoothオーディオ機能が搭載されています。Bluetooth対応機器と接続すれば、オーディオデータを本機で再生して、それに合わせて演奏したり、録音したりすることもできます。

スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

「スマートピアニスト」(無料)を使用すると、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、譜面を表示したりできます。

このアプリについては、以下のウェブサイトでご確認ください。

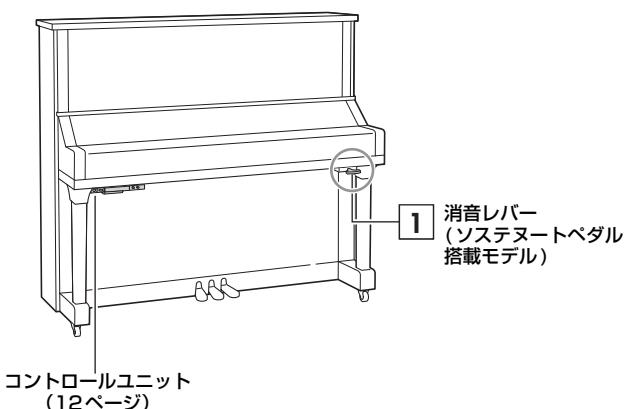
<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

楽器とスマートデバイスの接続は、「スマートピアニスト」の接続ウィザードにより行ないます。接続ウィザードを開始するには、「スマートピアニスト」の画面左上の「≡」をタップしてメニューを開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

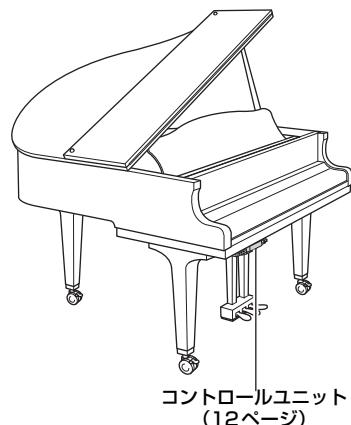
各部の名称

■ ピアノ本体

アップライトピアノ



グランドピアノ

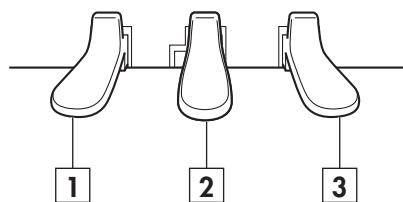


1 消音レバー

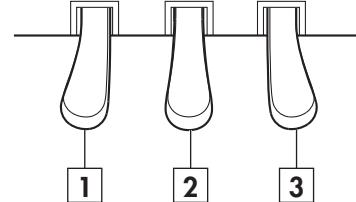
トランスマコースティックモード/サイレントピアノモードにします(17、19ページ)。

■ ペダル

アップライトピアノ



グランドピアノ



1 ソフトペダル

ペダルを踏むと、ペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。

2 消音ペダル

(ソステヌートペダル非搭載モデルの場合)
ペダルを踏んで左側にスライドさせて、トランスマコースティックモード/サイレントピアノモードにします(17、19ページ)。

ソステヌートペダル

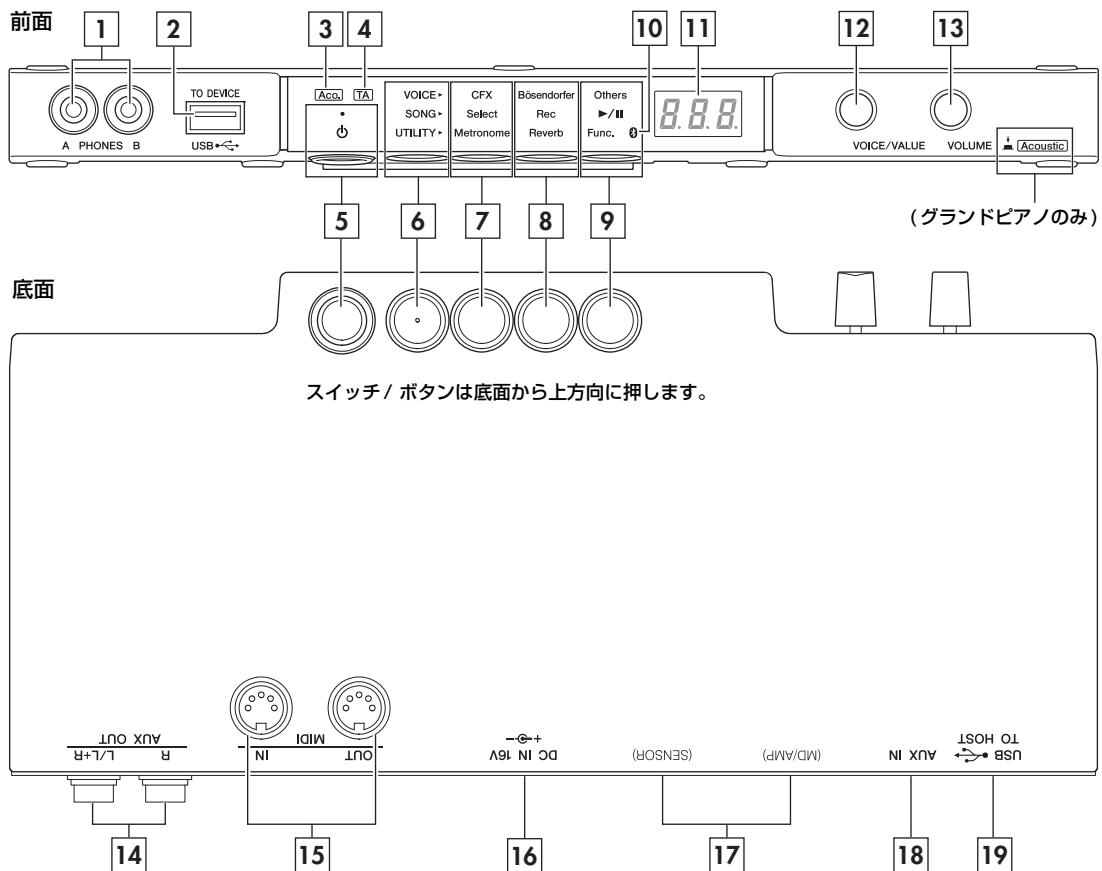
(ソステヌートペダル搭載モデルの場合)
ペダルを踏むと、そのとき押していた鍵盤の音のみが長く響きます。

3 ダンパーペダル

ペダルを踏むと、鍵盤から指を離したあとで、音が長く響きます。サイレントピアノモードでピアノ音色で演奏しているときに、このペダルを踏むと、VRM (43ページ)によりアコースティックピアノで得られる響板や弦の共鳴効果が加わります。共鳴効果のかかり具合は、ファンクション設定(36ページ)で調節できます。

本機はハーフペダルに対応しており、トランスマコースティックモード/レイヤーモード/サイレントピアノモード時に、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるかを設定できます(42ページ)。

■ コントロールユニット



1 [PHONES] 端子

ステレオミニプラグのヘッドフォンを接続します(15ページ)。2本まで同時に使えます。

2 [USB TO DEVICE] 端子

USBフラッシュメモリーや別売のUSB無線LANアダプターを接続します(49ページ)。

3 [Aco.] ランプ (グランドピアノのみ)

点灯中は、アコースティックピアノの音が鳴ります(16ページ)。

4 [TA] ランプ

点灯中は、トランスマニアコースティックモードまたはレイヤーモードであることを示し、電子音が響板を通して鳴ります(16ページ)。

5 [⊕](スタンバイ/オン)スイッチ

電源のスタンバイ/オンを切り替えます(14ページ)。

6 メニューボタン

ボタンを押すたびに、VOICE/SONG/UTILITYが順に切り替わり、ランプが点灯します。

• VOICE

音色に関する操作を行ないます(20ページ)。

• SONG

内蔵曲や録音した曲、市販の曲などの再生/録音操作を行ないます(22ページ)。

• UTILITY

メトロノームなどの操作や各種設定を行ないます(32ページ)。

7 ボタン1/ 8 ボタン2/ 9 ボタン3

メニューボタンでVOICE/SONG/UTILITYのいずれかを選ぶことにより、異なる機能が各ボタンに割り当てられます。各ボタンを押してその機能を操作します。

10 ブルートゥース
Bluetooth ランプ

Bluetooth 機能がオンのときに点灯します(57 ページ)。Bluetooth 対応機器との接続中は青、未接続の場合は UTILITY に入ると白で点灯します。

11 ディスプレイ

音色番号やソング番号、設定値などを表示します。



(ソング番号)



(各種設定値)

英数字3文字でさまざまなメッセージも表示します(60 ページ)。

12 ボイス パリュー
[VOICE/VALUE] つまみ

つまみを回して、音色を選んだり、設定値などを調整したりします。機能によっては、つまみを押して操作することもあります。

13 ボリューム
[VOLUME] つまみ

つまみを回して、トランスマニアコースティックモード/レイヤーモードでの演奏音量、ヘッドフォンの音量、AUX OUT 端子、USB [TO HOST] 端子や Bluetooth 接続による出力音の音量を調節します。

(グランドピアノのみ) つまみを押すと、アコースティックピアノの音のオン/オフを切り替えられます(16 ページ)。

14 AUX OUT [R]/[L/L+R] 端子

外部オーディオ機器に接続して、本機の音声を接続した機器に出力します(51 ページ)。

15 ミディ イン アウト
MIDI [IN]/[OUT] 端子

外部 MIDI 機器を接続します(53 ページ)。

16 イン
[DC IN 16V] 端子

(専門業者のみ取り扱いができます。) 電源に接続される端子です。納入時に接続されています。

17 センサー
[SENSOR] 端子/[MD/AMP] 端子

(専門業者のみ取り扱いができます。) センサーや内部ユニットに接続される端子です。納入時に接続されています。

18 イン
[AUX IN] 端子

携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器と接続して、外部オーディオ機器の音を本機で鳴らします(52 ページ)。

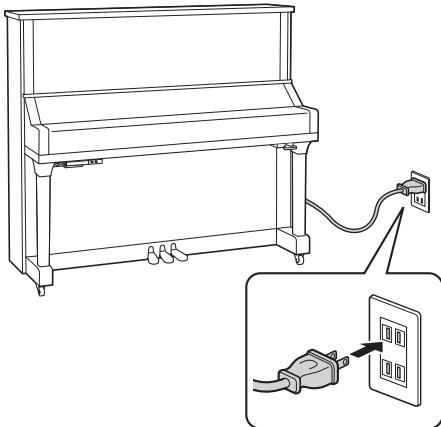
19 トゥー ホスト
[USB [TO HOST] 端子

コンピューターやスマートデバイスと接続します(54 ページ)。

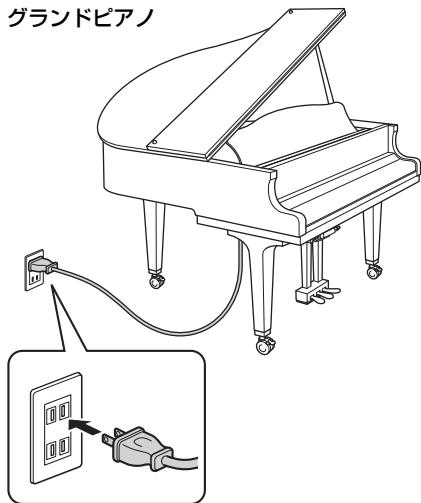
電源を入れる/切る

1 電源コードのプラグを電源コンセント(家庭用AC 100V)に差し込みます。

アップライトピアノ



グランドピアノ



⚠ 警告

電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

⚠ 注意

本機はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

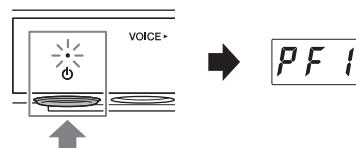
- コンセントから電源プラグを抜くときは、電源を切ってから行ってください。
- 電源コードは、使わないときはベルトに束ねておいてください。

2 [⊕](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

[⊕](スタンバイ/オン)スイッチのランプが点灯し、本機が起動します。電源を切るには、もう一度スイッチを押します。

NOTE

鍵盤を押したまま電源を入れると正しく発音されません。電源を入れるときは鍵盤から手を離してください。



⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

オートパワーオフ機能

本機は電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本機が操作されない状態が30分続くと自動的に電源が切れる機能です。

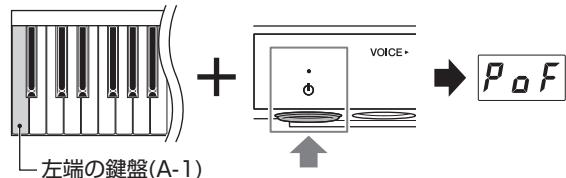
注記

ソングの再生中や外部機器と通信中の場合、無操作の状態が30分間続いても、電源は自動的には切れません。使用後は、[待] (スタンバイ / オン)スイッチを押して本機の電源を切ってください。

オートパワーオフ機能の解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れます。ディスプレイに「PoF」と表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源が入ります。

電源が入った状態で、オートパワーオフ機能をオン/オフしたい場合は、46ページをご覧ください。

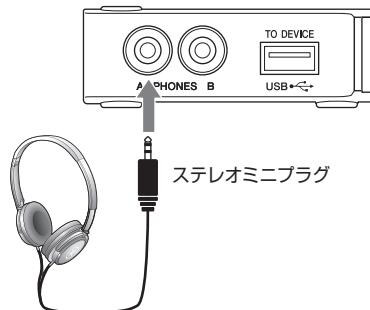


ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンは、[PHONES] 端子に接続して使います。[PHONES] 端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

ヘッドフォンの使用時でも、バイノーラルサンプリング、またはステレオフォニックオプティマイザーにより、臨場感のある音をお楽しみいただけます。詳しくは21ページをご覧ください。



△ 注意

- 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。
- ヘッドフォンのコードに足をひっかけて転倒しないようにご注意ください。

注記

ヘッドフォンのケーブルを無理に引っ張ったり、プラグに極端な力を加えたりしないでください。ヘッドフォンが破損して、音が正しく出力されない原因になります。

NOTE

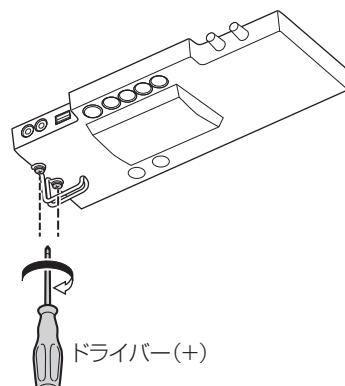
ヘッドフォンを接続すると、サイレントピアノモード(19ページ)になります。トランスマコースティックモード/レイヤーモードで演奏したい場合は、ヘッドフォンを外してください。

■ ヘッドフォンハンガーを取り付ける

必要に応じて、付属の取り付けネジ(2個)でコントロールユニット底面に取り付けてください。

注記

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。本機またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。



2章 演奏する

本機は、アコースティックピアノとして演奏するだけでなく、シーンに合わせて、以下の3つのモードでの演奏をお楽しみいただけます。これらのモードでは、コントロールユニットに内蔵された音色を使って演奏したり、演奏を録音したりできます。

- ・**トランスマルチモード**: トランスマルチ技術により、ピアノの響板から電子音を響かせて演奏します(17ページ)。
- ・**レイヤーモード**: アコースティックピアノの音だけでなく、電子音も鳴らして演奏します(18ページ)。
- ・**サイレントピアノモード**: 消音して、ヘッドフォンで電子音を聞きながら演奏します(19ページ)。

トランスマルチ技術とは

アコースティックピアノでは、鍵盤を押すことによりハンマーが弦をたたき、その振動が響板に伝わって音が鳴ります。一方、トランスマルチでは、トランスマルチ技術により、トランスマルチデューサー(加振器)が音源の信号を振動に変えて響板に伝えます。響板が生み出す響きはまさにアコースティック。その豊かな響きはそのままに、音量を調節することもできます。

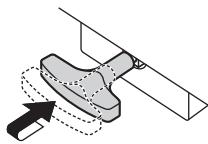
アコースティックピアノとして演奏する

通常のアコースティックピアノとして演奏する場合は、本機の電源を入れる必要はありません。

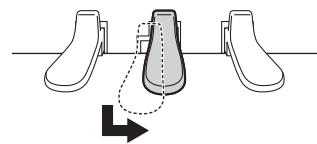
・アップライトピアノの場合

電源を切り、消音レバーを手前に引いて奥に戻すか、消音ペダルを踏みながら右側にスライドさせて元の位置に戻してから演奏します。

<ソステヌートペダル搭載>



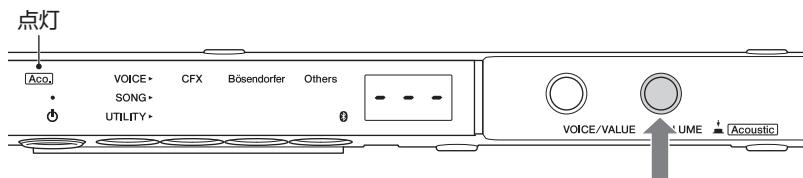
<ソステヌートペダル非搭載>



・グランドピアノの場合

電源が入ったままでもアコースティックピアノとしての演奏に切り替えられます。[VOLUME] つまみを押すと、[Aco.] ランプが点灯し、アコースティックピアノとして演奏できるようになります。このとき、自動的に音色が「---」(オフ)に設定されます。

もう一度[VOLUME] つまみを押すとトランスマルチモードに切り替わります。



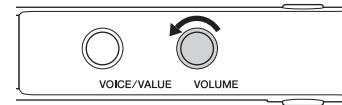
NOTE

「---」(オフ)以外の音色を選ぶと、[Aco.]ランプだけでなく[TA]ランプも点灯し、レイヤーモードになります(18ページ)。

電子音を鳴らして演奏する(トランスマコースティックモード)

トランスマコースティック技術により、ピアノの響板から電子音を響かせて演奏します。アコースティックピアノの音は鳴りません。

- 1 [VOLUME] つまみを左に回して音量を最小にします。

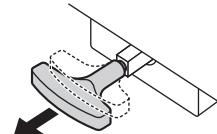


- 2 [S] (スタンバイ / オン) スイッチを押して電源を入れます。

- 3 以下のいずれかの操作により、アコースティックピアノの音が鳴らないようにします。

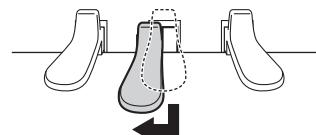
<アップライトピアノ (ソステヌートペダル搭載)>

- 鍵盤右下の消音レバーを、カチッと音が聞こえるまで手前に引きます。



<アップライトピアノ (ソステヌートペダル非搭載)>

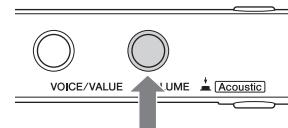
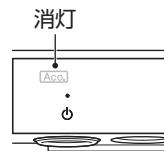
- 消音ペダルを踏みながら左側にスライドさせます。



<グランドピアノ>

- [Aco.] ランプが消灯していることを確認します。

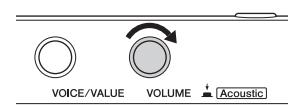
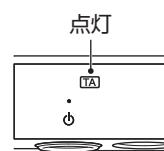
点灯している場合は、[VOLUME] つまみを押しで消灯させます。



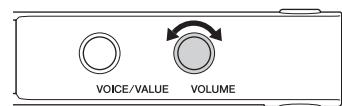
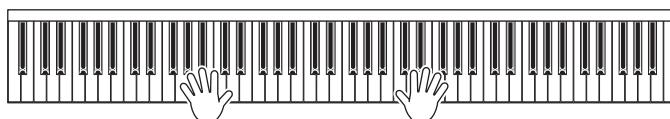
- 4 [VOLUME] つまみを少し右へ回し、
[TA] ランプが点灯することを確認します。

NOTE

音量が最小の場合や、音色が「--」(オフ)に設定されている場合(21ページ)、ヘッドフォンが接続されている場合は、[TA]ランプは点灯しません。



- 5 鍵盤を弾きながら [VOLUME] つまみを回して音量を調節します。
音量は、右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。



NOTE

トランスマコースティックモードで演奏しているときでもアコースティックピアノ特有の打鍵音は残ります。

アコースティックピアノの音に電子音を重ねて演奏する (レイヤーモード)

アコースティックピアノの音だけでなく、電子音も鳴らして演奏できます。

操作方法は、トランスマニアコスティックモード(17ページ)と同様です。ただし、手順3は必要ありません。

アップライトピアノの場合は、消音レバーまたは消音ペダルがアコースティックピアノの音が鳴る状態であることを確認してください(16ページ)。

グランドピアノの場合は、[VOLUME] つまみを押して [Aco.] ランプを点灯させてから(16ページ)、[VOICE/VALUE] つまみを回して、「--」(オフ)以外の音色を選んでください(20ページ)。

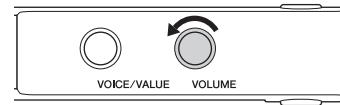
NOTE

- 本機は十分に調律されたうえで出荷されておりますが、お客様のご使用状況や温度変化などにより、徐々に調律がずれてきます。電子音とアコースティック音の音程がずれていると感じる場合は、ピアノ本体を調律するか、ファンクション設定で鍵盤のピッチを調整してください(40ページ)。調律は専門の技術者にて依頼ください。
- アコースティックピアノの音量は、[VOLUME] つまみでは調節できません。
- 音色を「--」(オフ)に設定すると(21ページ)、電子音を鳴らさず、アコースティックピアノの音だけで演奏できます。メトronomeを鳴らしながら、アコースティックピアノの音で演奏したい場合などに便利です。

■ 消音して演奏する(サイレントピアノモード)

消音して、ヘッドフォンから音を聞きながら演奏します。ピアノ本体からは音が鳴らず、光センサーにより読み取られた鍵盤の動きが電子音源に伝えられヘッドフォンから音が出ます。

- [VOLUME] つまみを左に回して音量を最小にします。

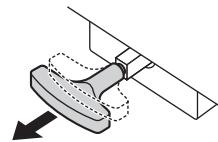


- [待機/電源]スイッチを押して電源を入れます。

- 以下のいずれかの操作により、アコースティックピアノの音が鳴らないようにします。

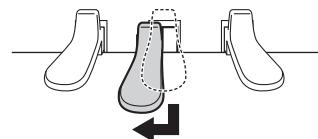
<アップライトピアノ(ソステナートペダル搭載)>

- 鍵盤右下の消音レバーを、カチッと音が聞こえるまで手前に引きます。



<アップライトピアノ(ソステナートペダル非搭載)>

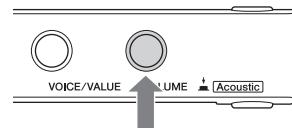
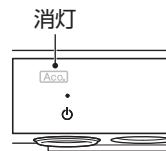
- 消音ペダルを踏みながら左側にスライドさせます。



<グランドピアノ>

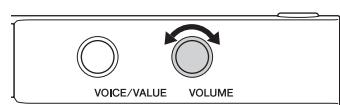
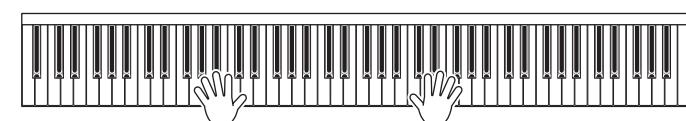
- [Aco.] ランプが消灯していることを確認します。

点灯している場合は、[VOLUME] つまみを押して消灯させます。



- [PHONES] 端子にヘッドフォンを接続します(15ページ)。

- 鍵盤を弾きながら [VOLUME] つまみを回して音量を調節します。



NOTE

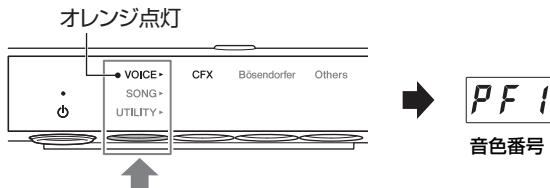
サイレントピアノモードで演奏しているときでもアコースティックピアノ特有の打鍵音は残ります。

音色を選ぶ

本機は、内蔵されているさまざまな音色で演奏できます。電源を入れたときは、必ずCFXグランドの音色が選ばれます。選べる音色は、次ページ「音色一覧」をご覧ください。

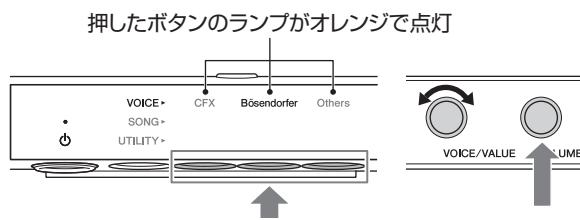
- 1** メニューボタンをくり返し押して、
[VOICE] ランプをオレンジ色に点灯させ
ます。

現在選ばれている音色番号がディスプレイに
表示されます。



- 2** [VOICE/VALUE] つまみ、またはボタン1
～3のいずれかを使って音色を選びます。

選んだ音色は、ランプの点灯とディスプレイの
表示で確認できます。



- [VOICE/VALUE] つまみを回す

つまみを左右に一段階ずつ回すと、「音色一
覧」の順で、前後の音色が選ばれます。この
つまみを押すと、CFXグランド(PF1)に戻せます。

- ボタン1 [CFX] を押す

CFXグランド(PF1)が選ばれます。

- ボタン2 [Bösendorfer] を押す

ベーゼンドルファーインペリアル(PF2)が選ばれます。

- ボタン3 [Others] を押す

ボタンを押すたび、各カテゴリーの先頭の音色(PF3、EP1、HS1、Or1、Pd1、Ly1)が順に選ばれます。電源が入っている間、ボタン3で選んだ音色は記憶されており、ボタン3を押せば、最後に選んだ音色をすぐに呼び出せます。電源を切ると、ボタン3の音色はアップライトピアノ(PF3)にリセットさ
れます。

- [VOLUME] つまみを押す

「---」(オフ)が選ばれます。鍵盤を弾いても電子音は鳴りません。アコースティックの音で演奏しなが
ら、メトロノームや録音機能などを使いたい場合に便利です(レイヤーモード)。

「---」は、[VOICE/VALUE] つまみを回して選ぶこともできます。

NOTE

グランドピアノでは、[Aco.]ランプが点灯している場合のみ「---」を選べます。

NOTE

- 音色の特徴をつかむには、音色ごとのデモ曲を聞いてみてください(22ページ)。
- 音響効果のかかり具合やタッチ感度、チューニングなど、ファンクション設定(36ページ)で調整できます。
- 鍵盤を押されたまま音色を切り替えると音量が大きく変わることがあります。

音色一覧

ボタン	表示	音色	ボタン	表示	音色
ボタン1	<i>PF 1</i>	バイノーラル CFXグランド	ボタン3	<i>Or 1</i>	オルガン プリンシパル
		CFXグランド			
ボタン2	<i>PF 2</i>	ベーゼンドルファー インペリアル		<i>Or 2</i>	オルガン トゥッティ
ボタン3	<i>PF 3</i>	アップライトピアノ		<i>Or 3</i>	ジャズオルガン
	<i>PF 4</i>	ポップ グランド		<i>Pd 1</i>	ストリングス
	<i>PF 5</i>	バラード グランド		<i>Pd 2</i>	クワイア
	<i>EP 1</i>	ステージ エレピ		<i>Pd 3</i>	シンセパッド
	<i>EP 2</i>	DX エレピ		<i>LY 1</i>	ピアノ+ストリングス
	<i>EP 3</i>	ビンテージ エレピ		<i>LY 2</i>	ピアノ+パッド
	<i>HS 1</i>	ハープシコード 8'		<i>LY 3</i>	ピアノ+DXエレピ
	<i>HS 2</i>	ハープシコード 8'+4'		---	オフ
	<i>HS 3</i>	チェレスタ			

NOTE

- 各音色の詳細は、64ページをご覧ください。
- 「--」(オフ)を選ぶには、[VOLUME]つまみを押すか、[VOICE/VALUE]つまみを回します。ボタン1～3では選べません。

■ ヘッドフォンでも自然な音の広がりを －バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー－

ヘッドフォン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、音色により以下の2つの方式を採用しています。これらの効果は、オン/オフを設定できます(43ページ)。

バイノーラルサンプリング (CFXグランド音色のみ)

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。CFXグランドの音色では、ヘッドフォンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感ある演奏をお楽しみいただけます。

ステレオフォニックオプティマイザー (CFXグランド以外のピアノ音色)

ステレオフォニックオプティマイザーとは、バイノーラルサンプリングのような自然な音の広がりを再現するエフェクトです。CFXグランド以外のピアノ音色(64ページ)を選んでいるときは、効果がかかり臨場感のある演奏をお楽しみいただけます。

本書では、内蔵曲や録音した曲、市販の曲データを総称して「ソング」と呼びます。本機では、MIDIソングとオーディオソングを扱えます。

扱えるソングのデータ形式

ソング形式	ファイル形式	拡張子
MIDIソング 打鍵やその強さなど、鍵盤の動きを演奏情報として記録したソングです。音そのものは記録されていません。記録された演奏情報に基づいて音源を鳴らすことで、はじめて音になります。 データ容量が小さく、また、音色の変更などの編集がしやすいのが特長です。	SMFフォーマット0 再生と録音が可能なMIDIファイル形式です。本機で録音されたMIDIソングは、すべてこの形式で保存されます。	.MID
	SMFフォーマット1 再生のみが可能なMIDIファイル形式です。	
オーディオソング 実際に演奏した音そのものを記録したソングです。カセットテープやボイスレコーダーなどに録音するのと同じくみで記録したものです。携帯音楽プレーヤーなどでも再生できるので、ほかの人に自分の演奏を聞いてもらうことが手軽にできます。	WAV コンピューターなどで一般的に使われている、音声ファイル形式です。本機は44.1kHz/16ビットのステレオWAVファイルを再生できます。本機で録音されたオーディオソングは、すべてこの形式で保存されます。	.WAV

ソングを再生する

再生できるソングの種類(ソングカテゴリー)

ソングカテゴリー		ソング番号	説明
<i>d.</i>	デモソング(MIDI)	d.01～d.20	本機に内蔵されている音色のデモ曲(66ページ)です。
<i>P.</i>	プリセットソング(MIDI)	P.01～P.50	本機に内蔵されているピアノソング(66ページ)です。付属の楽譜集「クラシック名曲50選」に楽譜が掲載されているのでご活用ください。
<i>R.</i>	USBフラッシュメモリー*	ユーザーソング(オーディオ)	本機で録音し、USBフラッシュメモリーに保存したオーディオソングです(26ページ)。
<i>C.</i>		外部ソング(オーディオ)**	市販のオーディオソングやコンピューターなどの機器で編集したオーディオソングを、USBフラッシュメモリーに保存した外部ソングです。
<i>S.</i>		ユーザーソング(MIDI)	本機で録音し、USBフラッシュメモリーに保存したMIDIソングです(26ページ)。
<i>F.</i>		外部ソング(MIDI)**	市販のMIDIソングやコンピューターなどの機器で編集したMIDIソングを、USBフラッシュメモリーに保存した外部ソングです。
<i>U.</i>	内蔵メモリー	ユーザーソング(MIDI)	本機で録音し、内蔵メモリーに保存したMIDIソングです(26ページ)。
<i>L.</i>		外部ソング(MIDI)**	市販のMIDIソングやコンピューターなどの機器で編集したMIDIソングを、本機の内蔵メモリーへ転送した外部ソングです。

* USBフラッシュメモリーのカテゴリーは、USBフラッシュメモリーが接続されているときのみ表示されます。

** 外部ソングのカテゴリーは、対象のデータがある場合のみ表示されます。

USBフラッシュメモリー内のソングファイルの再生順序については、68ページをご覧ください。

NOTE

- 本機で録音したソングを「ユーザーソング」といい、この楽器以外で作られたソングを「外部ソング」といいます。USB フラッシュメモリーにソングを録音すると、「USER FILES」フォルダーが自動的に作成され、このフォルダーにユーザーソングが保存されます。「USER FILES」フォルダー内のソングは、ユーザーソングとして扱われ、「USER FILES」フォルダー外のソングは、外部ソングとして扱われます。
- ヤマハのウェブサイト「ヤマハミュージックデータショップ」や、一部のヤマハ特約楽器店に設置された Muma (ミューマ) からご購入いただいたディスクライバ用の音楽ソフトも再生できます。詳しくは、下記ウェブサイトをご確認ください。
ヤマハミュージックデータショップ: <http://yamahamusicdata.jp/>
Muma: <http://www.ymm.co.jp/muma/>

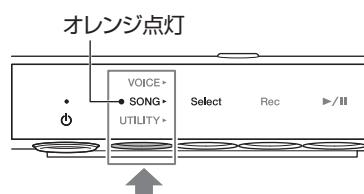
1

(USB フラッシュメモリー内のソングを再生する場合のみ)
コントロールユニット前面の USB [TO DEVICE] 端子に、USB フラッシュメモリーを接続します。

USB フラッシュメモリーを使う前に必ず「USB 機器を接続する」(49 ページ) をご覧ください。

2

メニュー ボタンをくり返し押して、
[SONG] ランプをオレンジ色に点灯させ
ます。

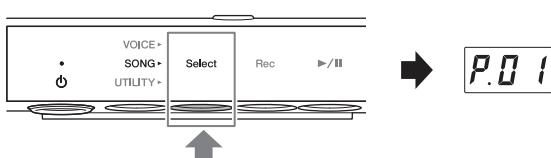


3

ボタン 1 [Select] をくり返し押して、
ソングカテゴリー (22 ページ) を選び
ます。

NOTE

内蔵メモリーに保存された外部ソングのカテゴリー (L.)
は、この操作では選べません。内蔵メモリーのユーザーソングカテゴリー (U.) を選んで手順 4 に進むと、「U.10」と
「U.rd」の間に表示されます。



4

[VOICE/VALUE] つまみを回して再生し
たいソングを選びます。

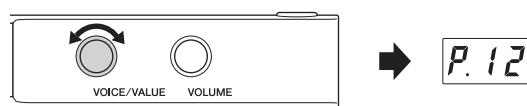
下記の場合は、カテゴリー内のソングを連続再
生できます。それ以外の場合は、選んだソング
のみを再生し、最後まで再生すると、自動的に止まります。

- *.rd (ランダム再生) カテゴリー内のすべてのソングを順不同に連続再生します。
- *.AL (オールリピート再生) カテゴリー内のすべてのソングを順番に連続再生します。

「*」は、ソングカテゴリーを示します。たとえば、「P.rd」はすべてのプリセットソングを順不同に連続再生します。

NOTE

- [VOICE/VALUE] つまみを押すとソングカテゴリー内の先頭の曲が選ばれます。
- デモソングでは、連続再生はできません。
- 「U.rd」または「U.AL」を選んだ場合は、内蔵メモリー内のユーザーソングだけでなく、外部ソングも再生されます。

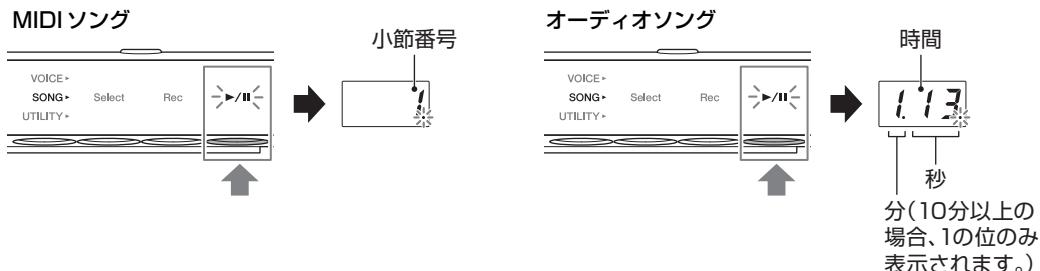


5

ボタン3 [▶/■] (再生/一時停止)を押して再生をスタートします。

[▶/■] ランプが点灯し、ディスプレイには再生位置(小節番号または時間)が表示されます。MIDIソングのテンポに合わせて(オーディオソング再生時はメトロノームのテンポに合わせて)右下のドットが点滅します。

再生中の操作については、24ページをご覧ください。

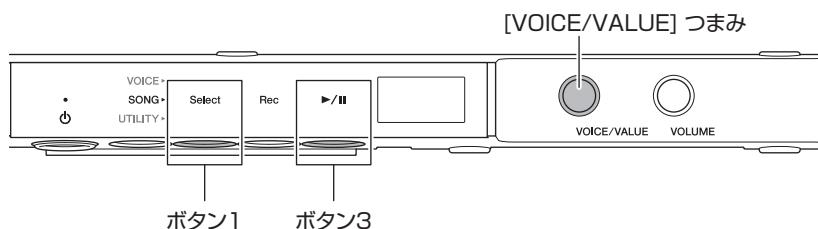


NOTE

デモソングは再生位置が表示されません。

■ 再生中の操作

ソング再生中にメニュー(VOICE/SONG/UTILITY)を切り替えて、再生は継続されます。SONGが選ばれている場合のみ、以下の操作が行なえます。



・一時停止する

再生中にボタン3 [▶/■] (再生/一時停止)を押すと一時停止します。ディスプレイの表示が止まり、[▶/■] ランプが点滅します。もう一度押すと、一時停止したところから再生を再開できます。

・停止する

再生中にボタン1 [Select] を押すと停止します。ソングが最後まで再生された場合は、自動的に停止します。

再生を始めるには、ボタン3 [▶/■] (再生/一時停止)を押します。次に再生するときは、曲頭から再生が始まります。

・早送り/早戻しする

再生中または一時停止中に [VOICE/VALUE] つまみを回します。左に回すと早戻し、右に回すと早送りできます。

MIDIソングは小節単位、オーディオソングは秒単位で再生位置が移動します。

NOTE

デモソングは早送り/早戻しできません。

・曲頭に戻る

再生中に [VOICE/VALUE] つまみを押すと、曲頭に戻ります。

NOTE

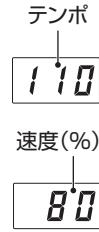
デモソング再生中は、この操作をするとd.01のデモソングが選ばれます。

• テンポを調節する

MIDIソング再生中はそのテンポを、オーディオソング再生中はその再生速度を変えられます。操作方法は、メトロノームのテンポと同様です。詳しくは33ページをご覧ください。

MIDIソングの場合: 5～500(1分間の拍数)の範囲で調節します。一時停止中にテンポを変更することもできます。停止すると、初期設定に戻ります。

オーディオソングの場合: 元の速度を100%として75%～125%の範囲で設定できます。設定した速度は、ほかのソングを選ぶまで保持されます。



NOTE

- 曲の途中でテンポが変わるMIDIソングの場合、相対的にテンポが変わります。たとえば、曲頭のテンポが100、途中で120に変わるMIDIソングの場合、曲頭のテンポを110(10%速くする)にすると、途中のテンポが132(10%速くなる)になります。
- MIDIソングのテンポを変えると、メトロノームも同じテンポに変わります。オーディオソングの再生速度を変えても、メトロノームのテンポは変わりません。
- オーディオソングの一時停止中で、メトロノーム再生中にこの操作をすると、メトロノームのテンポのみが変わります。オーディオソングの速度は変わりません。

ソングを録音する

本機での演奏を、MIDIソング(SMFフォーマット0)またはオーディオソング(WAV)として録音できます。MIDIソングは、内蔵メモリーに10曲、USBフラッシュメモリーに最大100曲(1曲あたり約500KBまで)が保存できます。オーディオソングは、USBフラッシュメモリーに最大100曲(1曲あたり80分まで)が保存できます。

USBフラッシュメモリーに録音した場合、MIDIソングは「USERSONG**.MID」(**は00～99の数字)、オーディオソングは「USERAUDIO**.WAV」というファイル名で「USER FILES」フォルダーに保存されます。

NOTE

- ソング再生中は録音できません。録音前にソングを停止してください。
- アコースティックピアノの音は録音されません。レイヤーモード(18ページ)で録音した場合、電子音のみが録音されます。
- 音色を「---」(オフ)に設定して録音した場合、MIDI録音では、CFXグランドの音色で録音されますが、オーディオ録音では、無音の状態が録音されます。

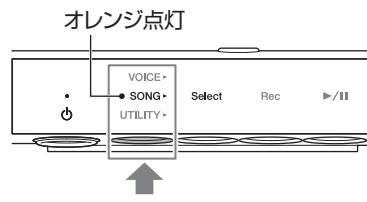
1 (USBフラッシュメモリーに保存する場合のみ)

コントロールユニット前面のUSB [TO DEVICE] 端子に、USBフラッシュメモリーを接続します。

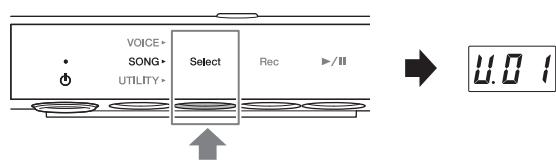
USBフラッシュメモリーを使う前に必ず「USB機器を接続する」(49ページ)をご覧ください。

2 音色(20ページ)など、必要な設定をします。

3 メニュー ボタンをくり返し押して、
[SONG] ランプをオレンジ色に点灯させます。

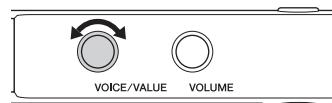


4 ボタン1 [Select] をくり返し押して、
録音方法(ソングカテゴリー)を選びます。



- 内蔵メモリーにMIDI録音する場合 U. (U.01～U.10)
- USBフラッシュメモリーにMIDI録音する場合 S. (S.00～S.99)
- USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する場合 A. (A.00～A.99)

5 [VOICE/VALUE] つまみを回して、録音先となるソング番号を選びます。



選んだソングに録音データがある場合

選んだソングに録音データがあるかどうかは、画面の表示で確認できます。

注記

録音済みのソング番号を選んで録音すると、それまで録音されていたデータは消去されます。

メトロノームを鳴らしたい場合は、ここでオンにします(32ページ)。

NOTE

メトロノームの音は録音されません。

録音データがある場合



3つのドットが点灯

録音データがない場合



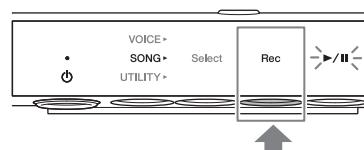
左端のドットのみ点灯

6 ボタン2 [Rec] を押して録音待機状態にします。

[Rec] ランプが赤く点灯し、[▶/■] (再生/一時停止) ランプが点滅します。

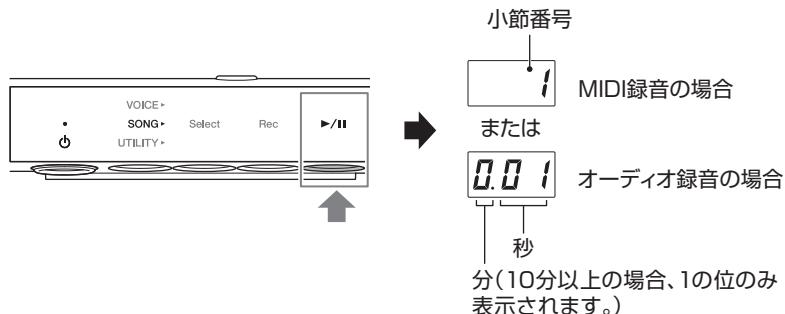
NOTE

- 録音待機中にもう一度ボタン2 [Rec] を押すと、録音を中止できます。
- ディスプレイに「EnP」や「FUL」が表示された場合、内蔵メモリーやUSBフラッシュメモリーの空き容量が少なくなっています。不要なユーザーソングを削除(30ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。
- 「EnP」が表示された場合は、録音は始められますか、演奏データを保存できなかったり、録音途中で自動的に停止したりすることがあります。「FUL」が表示された場合は、録音を始められません。



7 鍵盤を弾くと同時に録音がスタートするので、演奏します。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、ボタン3 [▶/■] (再生/一時停止) を押して録音をスタートさせます。[▶/■] (再生/一時停止) ランプが点灯に変わり、ディスプレイには、録音中の小節番号または、録音経過時間が表示されます。



注記

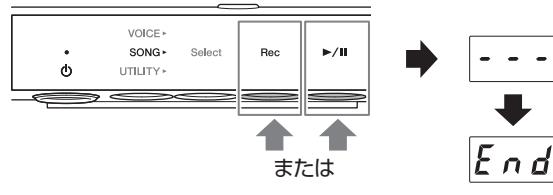
録音中または録音終了後にディスプレイに「FUL」が表示されると、内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量なくなったことを示しています。この場合、すべてまたは一部のデータが保存されません。不要なユーザーソングを削除してから(30ページ)、録音し直してください。

NOTE

オーディオ録音の場合、コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器からのオーディオ入力音([AUX IN]端子、USB [TO HOST]端子、無線LAN、Bluetoothでの接続)も録音されます。外部機器との接続方法は、49ページをご覧ください。

8 演奏が終わったら、ボタン2 [Rec] またはボタン3 [▶/■] (再生/一時停止) を押して録音を停止します。

データを保存中であることを示すダッシュ
「---」がディスプレイに表示されます。データの
保存が終わると「End」が表示され、ソング番
号の表示に戻ります。ボタン3 [▶/■] (再生/一時停止) を押すと、録音したソングが再生されます。



注記

データ保存中 (ダッシュ表示中) は電源を切らないでください。データや内蔵メモリー、USB フラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

NOTE

- 演奏せずに録音を止めた場合、MIDI 録音では選んだソングの演奏データが削除され、オーディオ録音では無音のソングが保存されます。
- 内蔵メモリーに録音したユーザーソングはUSB フラッシュメモリーにコピーできます (28 ページ)。

ユーザーソングを操作する

本機の内蔵メモリー内のユーザーソングをUSB フラッシュメモリーにコピーしたり、内蔵メモリーまたはUSB フラッシュメモリー内のユーザーソングを削除したりできます。

NOTE

- USB フラッシュメモリーを使う前に必ず「USB 機器を接続する」(49 ページ) をご覧ください。
- ソングの録音中や再生中、一時停止中は操作できません。ソングを停止してから操作してください。

■ 内蔵メモリーのユーザーソングをUSB フラッシュメモリーにコピーする

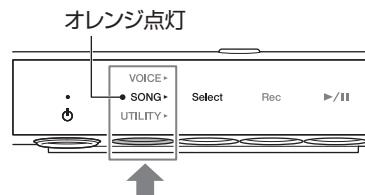
内蔵メモリーに保存されているユーザーソングは、USB フラッシュメモリーにコピーできます。大切なソングはUSB フラッシュメモリーにコピーしておくことをおすすめします。コピーしたソングは、USB フラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに「USERSONG**.MID」(**は数字) というファイル名でSMF フォーマット0で保存されます。

NOTE

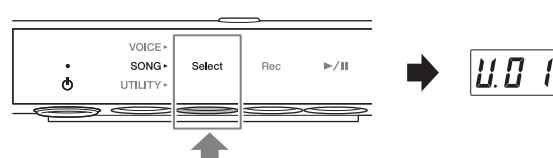
デモソングやプリセットソングはコピーできません。

1 コントロールユニット前面のUSB [TO DEVICE] 端子に、USB フラッシュメモリーを接続します。

2 メニューボタンをくり返し押して、[SONG] ランプをオレンジ色に点灯させます。



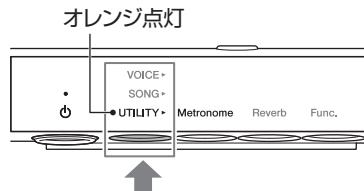
3 ボタン1 [Select] をくり返し押して、ソングカテゴリーを「U.」(ユーザーソング) に切り替えます。



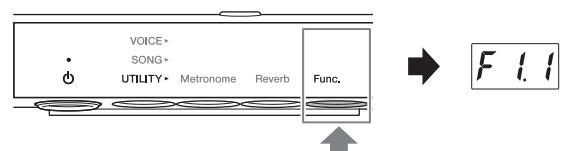
4 [VOICE/VALUE] つまみを回して、
コピーしたいソング (U.01～U.10) を
選びます。



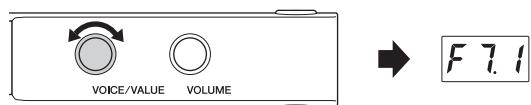
5 メニューボタンを押して、[UTILITY]
ランプをオレンジ色に点灯させます。



6 ボタン3 [Func.] を押してファンクション
設定に入ります。



7 [VOICE/VALUE] つまみを回して「F7.1」
を選びます。

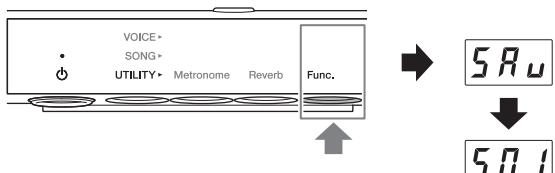


8 ボタン3 [Func.] を押して「SAv」を表示
させます。

USB フラッシュメモリー内の MIDI ソング番号
のうち、空いている最小の番号がコピー先とし
て選ばれ、表示されます。

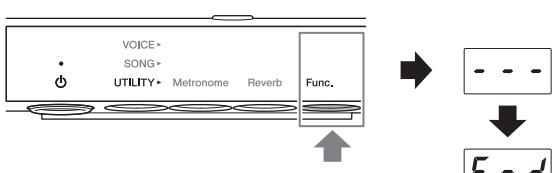
NOTE

- ソング番号の表示中にボタン3以外を押すと、コピーを中止できます。
- USB フラッシュメモリーに空いている MIDI ソング番号がない場合は、「FUL」と表示され、コピーできません。不要な
ユーザーソングを削除してから(30ページ)、操作し直してください。



9 もう一度ボタン3 [Func.] を押してコピー
を開始します。

ソングをコピー中であることを示すダッシュ
「--」がディスプレイに表示されます。
ソングのコピーが終わると、「End」がディスプ
レイに表示されます。



注記

ソングのコピー中(ダッシュ表示中)は USB フラッシュメモリーを抜いたり、電源を切ったりしないでください。データや
内蔵メモリー、USB フラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

■ ユーザーソングを削除する

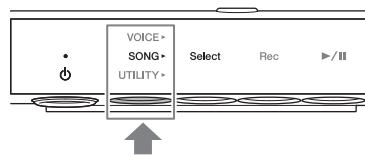
内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーに保存されているユーザーソングは以下の操作で削除できます。

NOTE

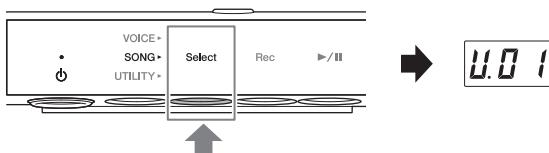
ユーザーソング以外のソングは削除できません。

1 USBフラッシュメモリーのソングを削除する場合は、コントロールユニット前面のUSB [TO DEVICE] 端子にUSBフラッシュメモリーを接続します。

2 メニューボタンをくり返し押して、[SONG] ランプをオレンジ色に点灯させます。

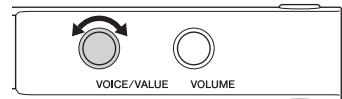


3 ボタン1 [Select] をくり返し押して、削除したいソングのカテゴリーを選びます。

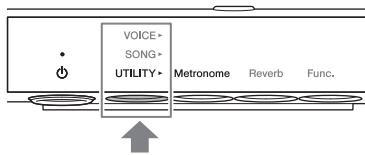


- U. (U.01 ~ U.10) ...内蔵メモリー内のユーザーソング (MIDI)
- S. (S.00 ~ S.99) ...USBフラッシュメモリー内のユーザーソング (MIDI)
- A. (A.00 ~ A.99) ...USBフラッシュメモリー内のユーザーソング (オーディオ)

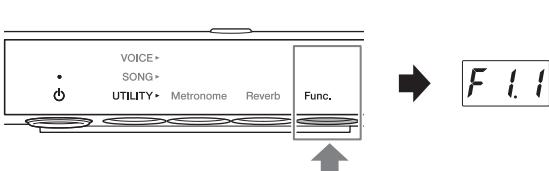
4 [VOICE/VALUE] つまみを回して、削除したいソングを選びます。



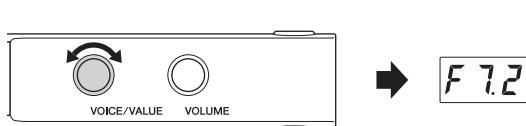
5 メニューボタンを押して、[UTILITY] ランプをオレンジ色に点灯させます。



6 ボタン3 [Func.] を押してファンクション設定に入ります。



7 [VOICE/VALUE] つまみを回して「F7.2」を選びます。



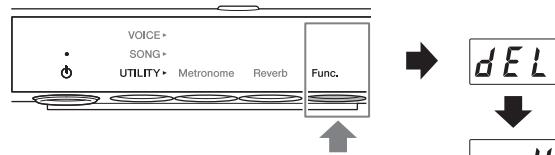
8

ボタン3 [Func.]を押して「dEL」と表示させます。

続いて、「n y」と表示されます。

NOTE

「n y」と表示されているときにボタン3 [Func.]以外を押すと、削除を中止できます。

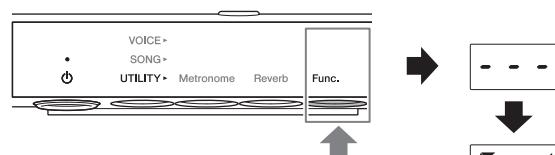


9

もう一度ボタン3 [Func.]を押して削除を開始します。

ソングを削除中であることを示すダッシュ「--」がディスプレイに表示されます。

ソングの削除が終わると、「End」がディスプレイに表示されます。



注記

ソングの削除中(ダッシュ表示中)はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、電源を切ったりしないでください。データや内蔵メモリー、USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

ここでは、UTILITYでの操作を説明します。UTILITYでは、音に残響を付けたり、メトロノームを使うなど、さまざまな便利な機能が用意されています。

メトロノームを使う

内蔵のメトロノームを使えば、正確なテンポで演奏できます。

NOTE

- MIDIソング(22ページ)の再生中は、ソングのテンポや拍子に合わせてメトロノームが鳴ります。
- 本機の電源を切ると、メトロノームのテンポと拍子は初期設定に戻ります。
- メトロノームの音量は、ファンクション設定(41ページ)で調節できます。
- レイヤーモード(18ページ)で演奏する場合、音色を「--」(オフ)に設定すると、メトロノームを鳴らしながらアコースティックの音だけ演奏できます。

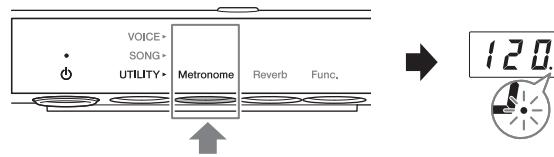
■ メトロノームをオン/オフする

- 1** メニューボタンをくり返し押して、[UTILITY] ランプをオレンジ色に点灯させます。



- 2** ボタン1 [Metronome] を押してメトロノームを鳴らします。

現在のテンポがディスプレイに表示されます。メトロノームが鳴っている間、現在のテンポに合わせてディスプレイ右下のドットが点滅します。メトロノームが鳴っている間は、メニュー (VOICE/SONG/UTILITY) を切り替えてもドットの点滅が続きます。



- 3** メトロノームを止めるには、もう一度ボタン1 [Metronome] を押します。

■ テンポを調節する

1 UTILITYでボタン1 [Metronome] を押して現在のテンポを表示させます。

2 [VOICE/VALUE] つまみを回してテンポを調節します。

テンポは5～500(1分間の拍数)の範囲で設定できます。

[VOICE/VALUE] つまみを押すと初期設定(120)に戻せます。

NOTE

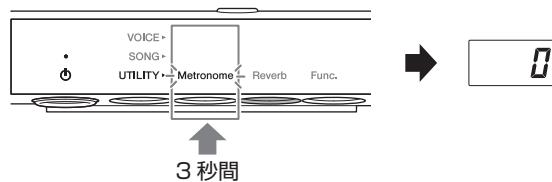
オーディオソングの再生中に操作をすると、オーディオソングの再生速度が変わります(25ページ)。メトロノームのテンポは変わりません。



■ 拍子を設定する

1 UTILITYでボタン1 [Metronome] を押します。

2 ボタン1 [Metronome] を3秒間長押しして、拍子の設定表示に切り替えます。



3 [VOICE/VALUE] つまみを回して拍子を設定します。

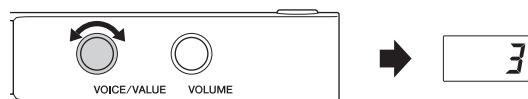
0、2～6の値から選べます。最初の拍で「チーン」と鳴り、その他の拍では「カチカチ」と鳴ります。たとえば3に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。0の場合は、すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。

[VOICE/VALUE] つまみを押すと初期設定(0)に戻せます。

ボタン1 [Metronome] を押すと、テンポ表示に戻せます。

NOTE

拍子の設定値は1小節に入る四分音符の数で指定するため、それ以外の拍子を指定する場合は4分音符に換算した拍子で指定してください(3/2拍子の場合は6拍子を指定します)。

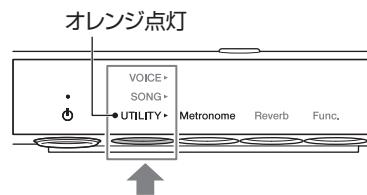


音に残響を付ける(リバーブ)

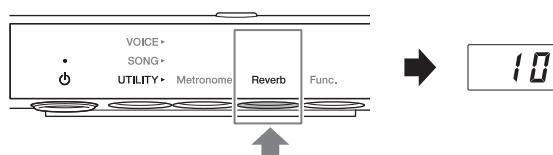
ピアノの響きは部屋の大きさや材質によって変化し、特に残響はその影響を大きく受けます。本機のリバーブ機能は、コンサートホールなどの残響をシミュレートすることにより、臨場感あふれる演奏を楽しむことができます。

音色を選ぶと、自動的に最適なリバーブタイプ(種類)や深さ(かかり具合)が設定されますが、好みに合わせて変更できます。

- 1** メニューボタンをくり返し押して、
[UTILITY] ランプをオレンジ色に点灯させます。



- 2** ボタン2 [Reverb] を押します。
現在設定されているリバーブの深さがディスプレイに表示されます。

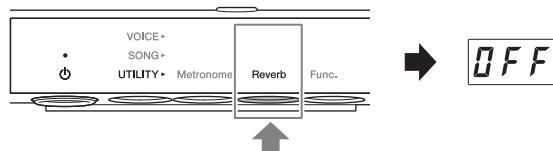


- 3** 以下の操作のうち、必要な設定をします。

- リバーブの深さを調節する
[VOICE/VALUE] つまみを回し、1~20の範囲でリバーブの深さを設定します。
[VOICE/VALUE] つまみを押すと、選んだ音色の初期設定に戻ります。



- リバーブをオフにする
リバーブの深さの表示中に、ボタン2 [Reverb] を押します。ディスプレイに「OFF」と表示され、鍵盤演奏のリバーブがオフになります。

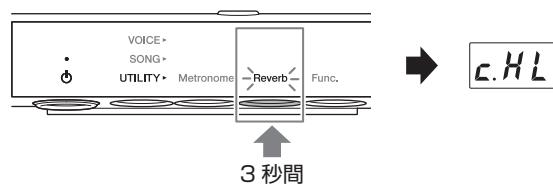


NOTE

リバーブタイプの「OFF」を選んでオフにすることもできます(35ページ)。この場合、鍵盤演奏だけでなくソングの再生音にもリバーブはかかりません。

- リバーブタイプを選ぶ

- 3-1** ボタン2 [Reverb] を3秒間長押しして、ディスプレイに現在のリバーブタイプを表示させます。



- 3-2** [VOICE/VALUE] つまみを回してリバーブタイプを選びます。

選べるタイプについては、下記の「リバーブタイプ一覧」をご覧ください。
[VOICE/VALUE] つまみを押すと、選んだ音色の初期設定に戻ります。

- 3-3** もう一度ボタン2 [Reverb] を押すか、何も操作せずに数秒経つと、リバーブの深さの表示に戻ります。

リバーブタイプ一覧

リバーブタイプ	説明	
OFF	オフ	鍵盤演奏およびソング再生音のリバーブがオフになります。
r.HL	リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響きです。
c.HL	コンサートホール	オーケストラの公演が行なわれる大きなホールの華やかな響きです。
Chn	チェンバー	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着きのある響きです。
Cst	大聖堂	天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響きです。
Clb	クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響きです。
PLT	プレート	録音スタジオで使用される往年のリバーブ装置の明るい響きです。

NOTE

- 電源を切るとリバーブは初期設定に戻ります。
- 外部ソング(22ページ)の再生時や、コンピューターなどからのMIDI情報の受信時(54ページ)は、ディスプレイに「--」と表示されることがあります。これは本機にないリバーブタイプが使われていることを表わします。

■ 本機の機能を設定する(ファンクション設定)

音の高さの微調整やメトロノーム音量の調節など、本機に内蔵されているさまざまな機能(ファンクション)をお好みに設定して、よりいっそう豊かな演奏を楽しみましょう。

■ ファンクション設定項目一覧

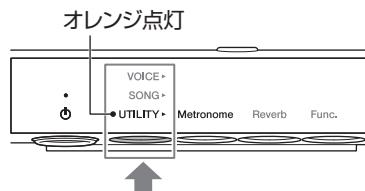
ファンクション設定項目		項目番号	ページ
ブリリアンス*		F1.1	38ページ
トランス アコースティック	トランスマニアコスティックの音響補正*	F1.2	38ページ
	トランスマニアコスティックの音色調整(低域)*	F1.3	38ページ
	トランスマニアコスティックの音色調整(中域)*	F1.4	38ページ
	トランスマニアコスティックの音色調整(高域)*	F1.5	38ページ
IAC	IAC オン/オフ*	F1.6	38ページ
	IACのかかり具合*	F1.7	39ページ
タッチ	タッチ感度*	F2.1	39ページ
	固定ペロシティー*	F2.2	39ページ
鍵盤	鍵盤演奏時の移調(キーボードトランスポーズ)	F3.1	40ページ
	鍵盤のピッチ調整(マスターチューニング)*	F3.2	40ページ
音律	音律(調律法)	F3.3	40ページ
	基音	F3.4	41ページ
メトロノームの音量*		F4.1	41ページ
ソング	MIDIソング再生と鍵盤演奏の音量バランス*	F4.2	41ページ
	ソング再生時の移調(ソングトランスポーズ)	F4.3	42ページ
	オーディオソングの音量*	F4.4	42ページ
音響	ハーフペダル位置の調整*	F5.1	42ページ
	バイノーラル オン/オフ*	F5.2	43ページ
	VRM オン/オフ*	F5.3	43ページ
	ダンパーレゾナンスのかかり具合	F5.4	44ページ
	ストリングスレゾナンスのかかり具合	F5.5	44ページ
	アリコートレゾナンスのかかり具合	F5.6	44ページ
	ボディレゾナンスのかかり具合	F5.7	45ページ
	キーオフサンプリングの音量	F5.8	45ページ
MIDI	MIDI送信チャンネル*	F6.1	45ページ
	ローカルコントロールのオン/オフ	F6.2	45ページ
ファイル操作	ユーザーソングのコピー	F7.1	46ページ
	ユーザーソングの削除	F7.2	46ページ
	USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)	F7.3	46ページ
オートパワーオフ*		F8.1	46ページ
AUX INノイズゲート*		F8.2	47ページ
バージョン表示		F8.3	47ページ
オーディオ入力のループバック*		F8.4	47ページ

ファンクション設定項目		項目番号	ページ
Bluetooth	Bluetooth機能のオン/オフ*	F8.5	48ページ
	ペアリング*	F8.6	48ページ

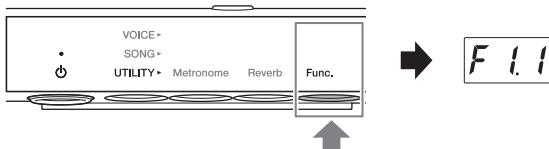
「*」印が付いている項目は、電源を切っても設定は保持されます。

■ ファンクション設定の基本操作

- 1 メニューボタンをくり返し押して、
[UTILITY] ランプをオレンジ色に点灯させます。



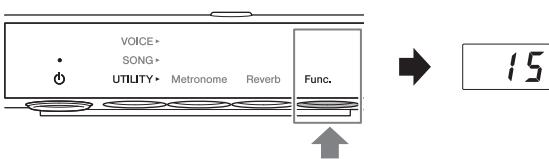
- 2 ボタン3 [Func.] を押してファンクション設定に入ります。



- 3 [VOICE/VALUE] つまみを回して設定したい項目を選びます。

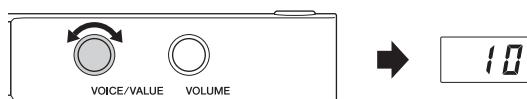


- 4 ボタン3 [Func.] を押して設定値を表示させます。



- 5 [VOICE/VALUE] つまみを回して設定値を変更します。

続けてほかの項目を設定する場合は、手順2から操作します。



ファンクション設定から抜けるには、ボタン3以外のボタンを押します。

■ ブリリアンス

F 1.1

メロー(柔らかくまろやかな音)からブライト(明るく鋭い音)の間で音質を調整します。

設定範囲	-2 (メロー)～0 (ノーマル)～+2 (ブライト)
初期設定	0 (ノーマル)

■ トランスマコースティックの音響補正

F 1.2

トランスマコースティックモード、レイヤーモードでの演奏時に、屋根(天板)を閉めたときでも自然な響きとなるように、音響を補正します。

設定範囲	OPn (開)/CLS (閉)
初期設定	アップライトピアノ:CLS (閉)、グランドピアノ:OPn (開)

■ トランスマコースティックの音色調整

F 1.3

F 1.4

F 1.5

トランスマコースティックモード、レイヤーモードでの演奏時に、響板から出る音の低域(F1.3)、中域(F1.4)、高域(F1.5)の音色をそれぞれ調整します。

設定範囲	-12～0～+12
初期設定	0

■ IAC (インテリジェント・アコースティック・コントロール) オン/オフ

F 1.6

IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IACは、トランスマコースティックモード、レイヤーモードでの響板からの出力音のみに有効です。

設定範囲	On/OFF
初期設定	On

■ IAC のかかり具合

F1.7

IAC のかかり具合を調整します。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。

設定範囲	-3~0~+3
初期設定	0

■ タッチ感度

F2.1

鍵盤を弾く強さに対する強弱の付き方(タッチ感度)を設定します。

設定範囲	-2 (ソフト)	弱い打鍵でも大きな音を出すことができます。
	-1 (ソフト/ミディアム)	ソフトとミディアムの中間のタッチ感度です。
	0 (ミディアム)	標準的なタッチ感度です。
	1 (ミディアム/ハード)	ミディアムとハードの中間のタッチ感度です。
	2 (ハード)	強い打鍵で弾かないと大きな音が出にくくなります。
	OFF (固定)	打鍵の強弱による音の強弱は付けずに、一定の音量が出ます。
初期設定	0 (ミディアム)	

NOTE

OFF (固定)に設定した場合は、「F2.2 固定ベロシティ」で音量を設定できます。

■ 固定ベロシティ

F2.2

タッチ感度をOFF (固定)に設定した場合、ベロシティ(音量)を変更できます。

設定範囲	1~127
初期設定	64

■ 鍵盤演奏時の移調(キーボードトランスポーズ)

F 3.1

鍵盤演奏のキーを半音単位で移調します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、移調量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏ができます。

設定範囲	-12~0~+12
初期設定	0

NOTE

演奏情報(ノートオン/オフ)をコンピューターなどにMIDI送信する場合、ノートナンバーはトランスポーズされた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。

■ 鍵盤のピッチ調整(マスターチューニング)

F 3.2

鍵盤の音の高さを0.2Hz単位で微調整します。ほかの楽器や携帯音楽プレーヤーの再生などに合わせて演奏するときに便利です。

設定範囲	414.8~466.8 (Hz)
初期設定	440.0 (Hz)

NOTE

設定値は100の位は省略されて表示されます(440.2Hzの場合は、「40.2」と表示されます)。

■ 音律(調律法)

F 3.3

一般的なピアノの調律法である「平均律」以外の音律によって演奏される音楽があります。音律の設定を変えることで、それらの音楽が誕生した当時の調律法で演奏できます。

設定範囲	1 (平均律)	1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。
	2 (純正律長調)	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴です。現在でも合唱のハーモニーなどに見られます。
	3 (純正律短調)	
	4 (ピタゴラス音律)	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが、5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。
	5 (中全音律)	ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。
	6 (ヴエルクマイスター音律)	
	7 (キルンベルガー音律)	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特徴です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の曲をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにしばしば用いられます。
	初期設定	1 (平均律)

■ 基音

F 3.4

音律を平均律以外に設定した場合は、基音(調の主音)を設定する必要があります。基音を変えると、音律の音程を保ったまま移調します。

設定範囲	C、C♯、D、E♭、E、F、F♯、G、A♭、A、B♭、B
初期設定	C

NOTE

上部の横線はシャープを、下部の横線はフラットをそれぞれ示しています。



■ メトロノームの音量

F 4.1

メトロノームの音量を調節します。

設定範囲	1~20
初期設定	15

■ MIDIソング再生と鍵盤演奏の音量バランス

F 4.2

鍵盤演奏の音量とMIDIソングの再生音量のバランスを調節します。値を小さくすると鍵盤演奏の音量が下がり、大きくするとソング再生の音量が下がります。オーディオソングの場合は「オーディオソングの音量」(42ページ)を操作してバランスを調整します。

設定範囲	-64~0~+64
初期設定	0

NOTE

一部のピアノソフトソングでは、音量バランス値が独自に設定されています。その場合には、独自に設定されている音量バランス値が優先されます。

■ ソング再生時の移調(ソングトランスポーズ)

F 4.3

MIDIソングやオーディオソングを再生したときのキーを半音単位で移調します。たとえば移調量を5に設定した場合、C3(ド)の音はF3(ファ)の音として再生されます。

設定範囲	-12～0～+12
初期設定	0

NOTE

- ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。
- オーディオソングの場合は音質が変わることがあります。

■ オーディオソングの音量

F 4.4

オーディオソングを再生したときの音量を設定できます。

設定範囲	1～20
初期設定	16

■ ハーフペダル位置の調整

F 5.1

どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるかを設定します。ハーフペダルの効果は、数値が小さいほど浅い踏み込み位置でかかり、数値が大きいほど深い踏み込み位置でかかります。

設定範囲	-2～0～+4
初期設定	0

ハーフペダル機能

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

■ バイノーラル オン/オフ

F 5.2

バイノーラル機能のオン/オフを設定します。オンの場合はバイノーラルサンプリングまたはステレオフォニックオプティマイザーにより、ヘッドフォン使用時でも臨場感のある音が楽しめます(21ページ)。

設定範囲	On, OFF
初期設定	On

NOTE

ヘッドフォン接続時のみ効果がかかります。

バイノーラルサンプリング、またはステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドフォンで聞くのに最適になるように作られています。そのため、以下の場合はこの機能をオフにして使用することをおすすめします。

機能オフをおすすめする例：

- 接続したヘッドフォンでその音をモニターしながら、外部オーディオ機器やミキサーと接続して、本機の音を外部スピーカーで再生する場合
- ヘッドフォンを使用しながらオーディオ録音(26ページ)し、その曲をスピーカーで再生したい場合(録音した曲をあとでスピーカーから再生したい場合は、録音前から機能オフにしておきます。)

NOTE

外部オーディオ機器を接続する前に、必ず「ほかのオーディオ機器と接続する」(51ページ)をお読みください。

■ VRM オン/オフ

F 5.3

VRM(下記参照)のオン/オフを設定します。オンにすると、ピアノ音色(PF1～PF5)にのみVRMの効果がかかります。

VRMの要素(ダンパー・レゾナンス、ストリングス・レゾナンス、アリコート・レゾナンス、ボディ・レゾナンス)は個別に調節できます(F5.4～F5.7)。

設定範囲	On, OFF
初期設定	On

NOTE

ヘッドフォンからの出力音にのみ効果がかかります。

VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)とは
アコースティックピアノでは、ダンパー・ペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵盤の弦の振動がほかの弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響しあって豊かで華やかな共鳴音が広がります。本機に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間瞬間の共鳴音を作り出しているので、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。

■ ダンパーレゾナンスのかかり具合

F 5.4

ダンパーペダルを踏んだときに加わる、VRMによる共鳴効果(ダンパーレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM(43ページ)がオンで、ピアノ音色が選ばれている場合のみ効果がかかります。

設定範囲	0~10
初期設定	5

NOTE

ヘッドフォンからの出力音にのみ効果がかかります。

■ ストリングスレゾナンスのかかり具合

F 5.5

鍵盤を押したときに加わる、VRMによる弦の共鳴効果(ストリングレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM(43ページ)がオンで、ピアノ音色が選ばれている場合のみ効果がかかります。

設定範囲	0~10
初期設定	5

NOTE

ヘッドフォンからの出力音にのみ効果がかかります。

■ アリコートレゾナンスのかかり具合

F 5.6

鍵盤から手を離したときに加わる、VRMによるアリコートの共鳴効果(アリコートレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM(43ページ)がオンで、ピアノ音色が選ばれている場合のみ効果がかかります。

設定範囲	0~10
初期設定	5

NOTE

ヘッドフォンからの出力音にのみ効果がかかります。

アリコートとは

ほかの弦と共振する共鳴専用の弦をアリコートといい、ほかの弦と共振することで、倍音が響き豊かな響きが得られます。アリコートにはダンパーがなく消音されないので、鍵盤から手を離しても、アリコートの響きが残ります。

■ ボディレゾナンスのかかり具合

F 5.7

響板や側板、フレームなど、ピアノ本体部の響きを再現した効果(ボディレゾナンス)のかかり具合を調節します。VRM(43ページ)がオンで、ピアノ音色が選ばれている場合のみ効果がかかります。

設定範囲	0~10
初期設定	5

NOTE

ヘッドフォンからの出力音にのみ効果がかかります。

■ キーオフサンプリングの音量

F 5.8

キーオフサンプリング音(鍵盤から指を離したときに生じる微妙な音を再現したもの)の音量を調節します。キーオフサンプリングの効果を付けられる音色については、「音色一覧」(64ページ)をご覧ください。

設定範囲	0~10
初期設定	5

■ MIDI送信チャンネル

F 6.1

外部 MIDI 機器に鍵盤演奏の MIDI データを送信するときのチャンネルを指定します。OFF を選ぶと、MIDI データは送信されません。

設定範囲	1~16、OFF
初期設定	1

■ ローカルコントロール

F 6.2

本機で演奏した音を本機に内蔵の音源で鳴らすかどうかを設定します。

設定範囲	On	鍵盤演奏データを本機の音源に送信します。鍵盤を弾くと、本機の音源部から音が鳴ります。
	OFF	鍵盤演奏データを本機の音源に送信しません。鍵盤を弾いても、本機からは音が出なくなります。接続したMIDI機器に演奏データを送って、その外部機器から音を鳴らします。
初期設定	On	

■ ユーザーソングのコピー

F 7.1

内蔵メモリーのユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーします。詳しくは、「内蔵メモリーのユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする」(28ページ)をご覧ください。

■ ユーザーソングの削除

F 7.2

内蔵メモリーやUSBフラッシュメモリーに保存されたユーザーソングを削除します。詳しくは、「ユーザーソングを削除する」(30ページ)をご覧ください。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)

F 7.3

USBフラッシュメモリーをフォーマットします。詳しくは「USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する」(50ページ)をご覧ください。

注記

フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

■ オートパワーオフ

F 8.1

オートパワーオフ機能(15ページ)のオン/オフを切り替えます。

設定範囲	On	オートパワーオフ機能を有効にします。無操作の状態が30分間続くと、自動的に電源が切れます。
	OFF	オートパワーオフ機能を無効にします。[Φ](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を切ります。
初期設定	On	

注記

ソングの再生中や、外部機器と通信中の場合、「On」に設定しても電源は自動的には切れません。使用後は、[Φ](スタンバイ/オン)スイッチを押して本機の電源を切ってください。

■ AUX IN ノイズゲート

F 8.2

AUX IN ノイズゲートは[AUX IN]端子から入力された音声の余分なノイズをカットする機能です。初期状態ではオンに設定されていますが、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音までノイズとみなしてカットしてしまうことがあります。その場合は、オフにします。

設定範囲	On, OFF
初期設定	On

■ バージョン表示

F 8.3

本機のファームウェアのバージョンを表示します。

表示例: バージョン 1.00 の場合

1.00

■ オーディオ入力のループバック

F 8.4

USB オーディオインターフェース機能や無線 LAN 接続、Bluetooth オーディオ機能による、コンピューターやスマートデバイスから本機へのオーディオ入力音(54ページ)を、本機での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合は、オフにします。

たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、本機での演奏音だけでなく本機へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、本機での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定範囲	On, OFF
初期設定	On

注記

DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください。

NOTE

- 本機でのオーディオソング再生音は、この設定がオンのときはコンピューターやスマートデバイスに出力されますが、オフのときは出力されません。
- 本機でのオーディオ録音では、この設定がオンのときはコンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。

■ Bluetooth機能のオン/オフ

F8.5

Bluetooth機能のオン/オフを設定します。詳しくは「Bluetooth機能のオン/オフを切り替える」(57ページ)をご覧ください。

■ ペアリング

F8.6

Bluetooth対応機器を登録(ペアリング)します。「F8.6」の表示中にボタン3 [Func.]を押すと、本機がペアリングモード(ペアリング待機)になります。

ペアリングにはBluetooth対応機器側の設定も必要です。設定方法は、「Bluetooth対応機器とペアリングする」(56ページ)の手順3をご覧ください。

⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

USB 機器を接続する

USB [TO DEVICE] 端子には、USB フラッシュメモリーや別売のUSB 無線 LAN アダプターを接続します。本機と USB フラッシュメモリーでデータをやりとりしたり(28 ページ)、別売のUSB 無線 LAN アダプターを使ってスマートデバイスと無線通信(54 ページ)したりできます。

USB [TO DEVICE] 端子ご使用上の注意

本機にはUSB [TO DEVICE] 端子があります。USB [TO DEVICE] 端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USB フラッシュメモリー
- USB ハブ
- USB 無線 LAN アダプター (UD-WL01、別売)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/products/contents/pianos/support/index.html>

本機では、USB2.0~3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。

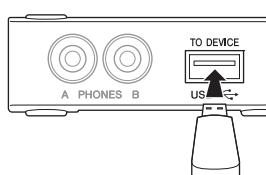
本機ではUSB1.1は使用できません。

注記

USB [TO DEVICE] 端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

USB [TO DEVICE] 端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。本機の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。

NOTE

- 1つのUSB [TO DEVICE] 端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、USB ハブを使います。USB ハブをパスワードでお使いください。USB ハブは1台のみ使用可能です。USB ハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSB ハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USB ハブを接続してください。
- USB機器の接続にはケーブルは使用できません。

USB フラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSB フラッシュメモリーを接続すると、本機で録音したデータをUSB フラッシュメモリーに保存したり、USB フラッシュメモリーのデータを本機で再生したりできます。

■ 接続できるUSB フラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSB フラッシュメモリーは、1台までです。(USB ハブを使用した場合でも、同時に使用できるUSB フラッシュメモリーは1台までです。)

■ USB フラッシュメモリーのフォーマット

USB フラッシュメモリーは本機でフォーマット(50 ページ)することをおすすめします。ほかの機器でフォーマットしたUSB フラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSB フラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB フラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用の前にお使いのUSB フラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB フラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音によるUSB フラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USB フラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

■ USB フラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する

本機に接続したUSB フラッシュメモリーは以下の操作でフォーマットできます。ディスプレイに「UnF」と表示された場合は、USB フラッシュメモリーをフォーマットしてください。

注記

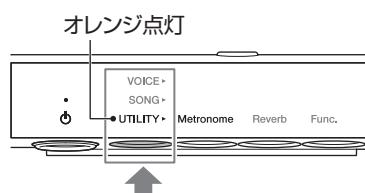
フォーマットを実行すると、USB フラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

1

コントロールユニット前面のUSB [TO DEVICE] 端子にUSB フラッシュメモリーを接続します。

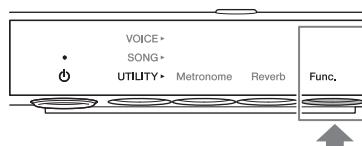
2

メニューボタンをくり返し押して、[UTILITY] ランプをオレンジ色に点灯させます。



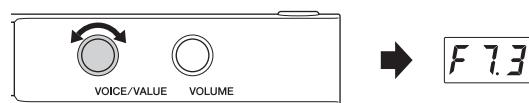
3

ボタン3 [Func.] を押してファンクション設定に入ります。



4

[VOICE/VALUE] つまみを回して「F7.3」を選びます。



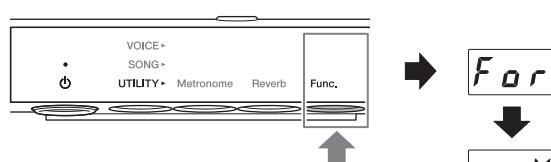
5

ボタン3 [Func.] を押して「For」と表示させます。

その後、「n y」と表示されます。

NOTE

「n y」と表示されているときにボタン3 [Func.] 以外を押すと、フォーマットを中止できます。

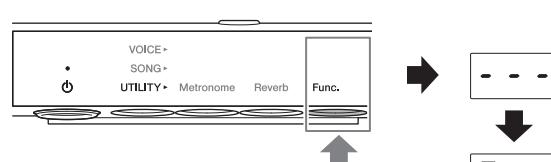


6

もう一度ボタン3 [Func.] を押してフォーマットを実行します。

実行中であることを示すダッシュ「---」がディスプレイに表示されます。

フォーマットが終わると、「End」がディスプレイに表示されます。



注記

フォーマットの実行中(ダッシュ表示中)はUSB フラッシュメモリーを抜いたり、本機の電源を切ったりしないでください。USB フラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

ほかのオーディオ機器と接続する

本機のAUX OUT端子や[AUX IN]端子にほかのオーディオ機器を接続すると、本機での演奏を外部機器に出力したり、外部機器の音声を本機に入力したりできます。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

■ AUX OUT [R]/[L/L+R] 端子に接続する

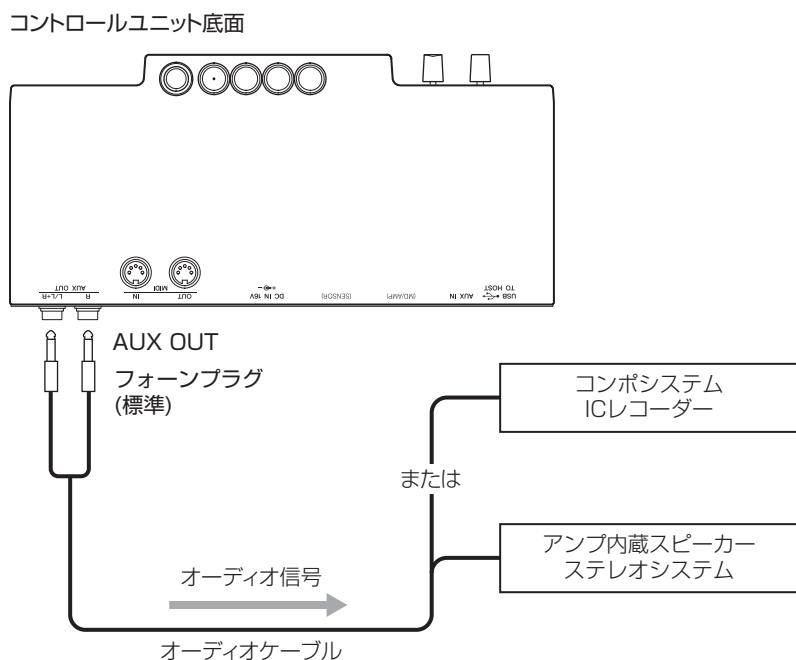
本機のAUX OUT [R]/[L/L+R] 端子は標準フォーンプラグ端子です。

コンポジットやICレコーダーを接続すると

トランスマルチモード/レイヤーモード/サイレントピアノモードでの演奏をそれぞれの機器で録音できます。

アンプ内蔵スピーカーやステレオシステムを接続すると

トランスマルチモード/レイヤーモード/サイレントピアノモードでの演奏をスピーカーで聞けます。



注記

外部機器の損傷を防ぐため、外部機器の音を本機から出力するときは、最初に本機、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に本機の順に行なってください。

NOTE

- AUX OUT 端子から出力される音量は、本機の[VOLUME] つまみで調整できます。
 - AUX OUT 端子からは、アコースティックピアノの音は出ません。
 - モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R] 端子をご使用ください。
 - スピーカーで本機の音を聞く場合は、バイノーラルサンプリング(またはステレオフォニックオプティマイザー)をオフにすることをおすすめします(20、43ページ)。

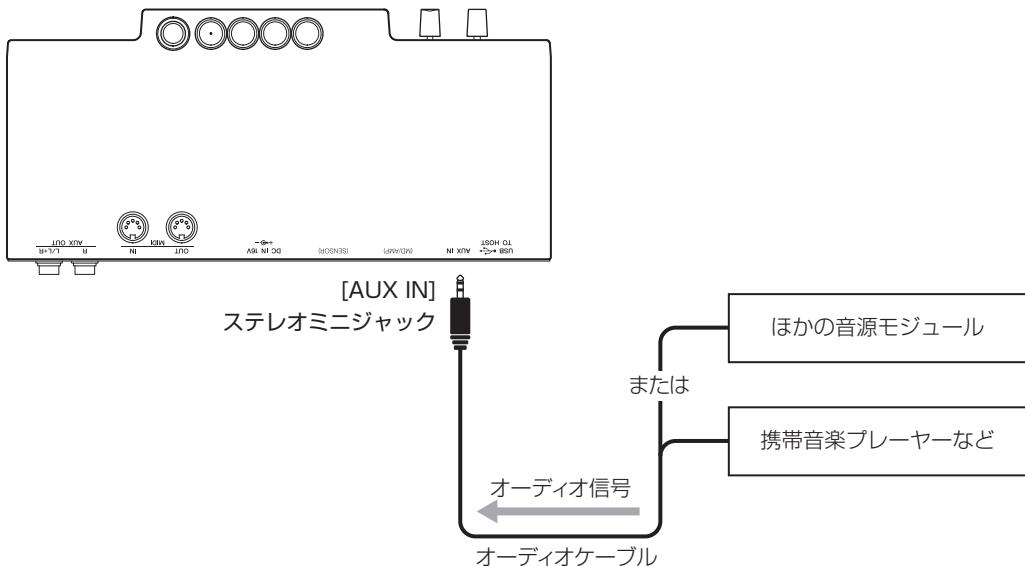
■ [AUX IN] 端子に接続する

本機の[AUX IN]端子はステレオミニジャック端子です。

ほかの音源モジュールや再生機器(携帯音楽プレーヤーなど)を接続すると、接続した機器から入力された音に合わせて演奏したり、ピアノをスピーカーのように響かせて音楽を聞いたりできます。トランスアコースティックモード/レイヤーモードでは響板から、サイレントピアノモードでは、ヘッドフォンから、[AUX IN]端子に入力された音が聞こえます。

本機の[VOLUME]つまみを使って、[AUX IN]端子から入力された音と、本機の音の両方の音量を調整できます。2つの音声のバランスは、接続機器の出力音量で調整してください。

コントロールユニット底面



注記

本機のAUX OUT端子から出力した音を、本機の[AUX IN]端子に戻さないでください。オーディオ信号のフィードバック(発振)が起こり、本機および接続した機器が故障する原因になります。

NOTE

- 本機は[AUX IN]端子に入力された音に対し、余分なノイズをカットしています。しかし、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音をノイズとみなしてカットしてしまうことがあります。このような場合は、ノイズゲートをオフに設定してください(47ページ)。
- [AUX IN]端子に入力した音楽を聞いていて、本機を操作しないまま30分経過すると、オートパワーオフ機能により、自動的に電源が切れます。オートパワーオフ機能を無効にする方法は、15ページまたは46ページをご覧ください。

ほかのMIDI機器と接続する

MIDIケーブルを使って、本機とほかのMIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、本機からほかのMIDI機器をコントロールしたり、ほかのMIDI機器から本機をコントロールしたりできます。

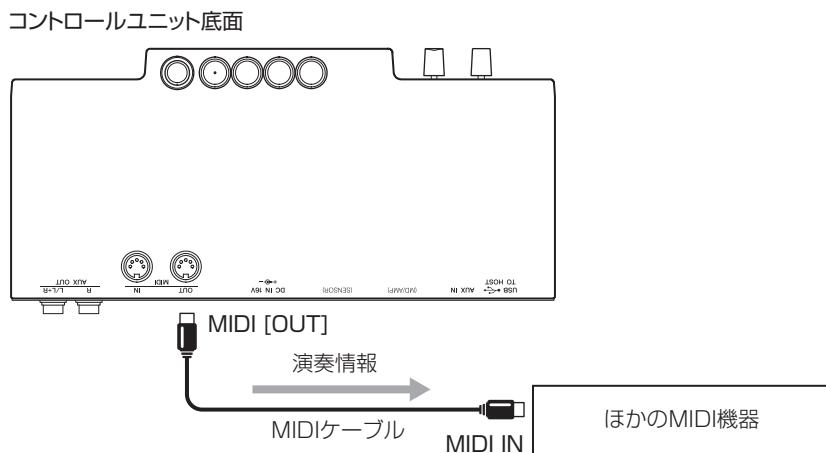
NOTE

- ・デモソングやプリセットソングのデータは送信できません。
- ・扱えるMIDIデータは機種ごとに異なり、接続しているMIDI機器同士で共通に扱えるデータだけが送受信できます。本機が扱えるMIDIデータは、ウェブサイト上の「MIDIリファレンス」をご覧ください。

■ MIDI [OUT] 端子に接続する

ほかのMIDI機器を接続すると

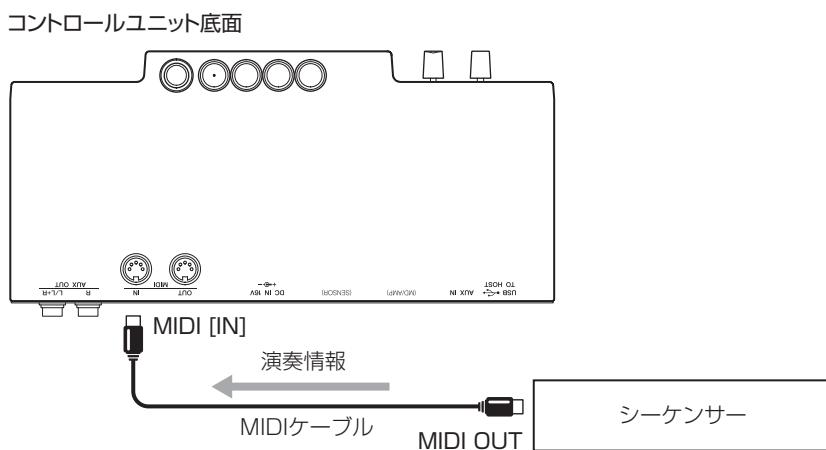
本機の演奏情報を送り、シンセサイザーなどほかのMIDI機器の音源で再生できます。



■ MIDI [IN] 端子に接続する

シーケンサーを接続すると

シーケンサーからの演奏情報を受け取り、本機の音源で再生できます。



コンピューターやスマートデバイスと接続する

楽器をコンピューターやスマートデバイスと接続すると、できることの幅が広がります。

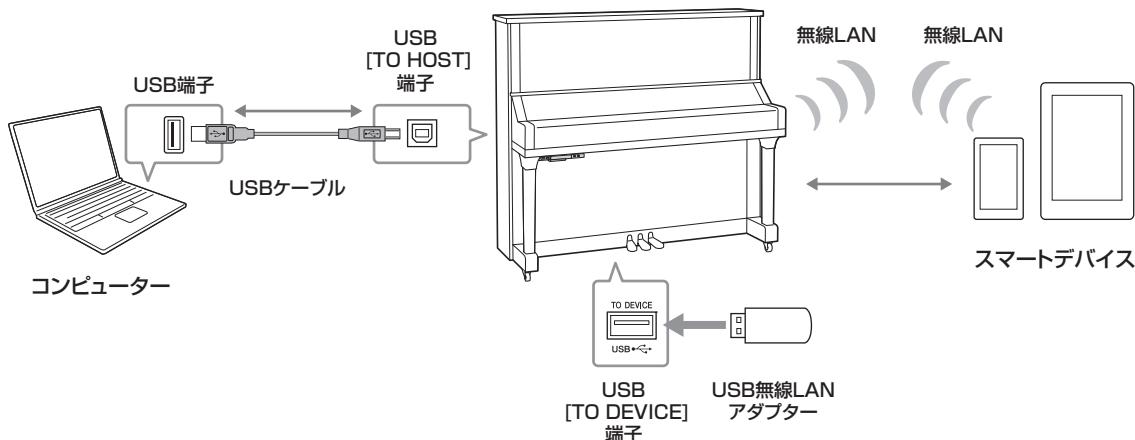
接続してできること

- ・オーディオデータを送受信する (USB オーディオインターフェース機能 55 ページ)
- ・スマートデバイスアプリを使う (55 ページ)
- ・スマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らす (Bluetooth オーディオ機能 56 ページ)
- ・MIDI データを送受信する
- ・本機に録音したソングをコンピューターに保存する

NOTE

MIDIデータの送受信や、ソングをコンピューターに保存する方法など、詳しくはウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

接続例



接続方法について詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」や「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

注記

- ・USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。また、3 メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0 ケーブルは、ご使用できません。
- ・DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(47 ページ)。
- ・コンピューターやスマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。

NOTE

- ・本機をコンピューターやスマートデバイスと USB ケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- ・使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要な MIDI 設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- ・オーディオデータの送受信を Windows 搭載のコンピューターで行なう場合は、Yamaha Steinberg USB Driver をコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。
- ・USB [TO DEVICE] 端子を使う前に、「USB [TO DEVICE] 端子ご使用上の注意」(49 ページ)をお読みください。
- ・スマートデバイスを本機の近くで使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、電波を発しない状態に設定(例: 機内モードをオンに設定)してお使いいただくことをおすすめします。
- ・本機はコンピューターやスマートデバイスとの接続後しばらくしてから通信を開始します。

■ オーディオ信号を送受信する (USB オーディオインターフェース機能)

USB ケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスを USB [TO HOST] 端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。一例として次のことができます。

- ・**オーディオデータを高音質で再生**
[AUX IN] 端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。
- ・**録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音**
録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

NOTE

- ・オーディオデータの入力音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。
- ・コンピューターやスマートデバイスから楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力するかどうかを設定できます。詳しくは、47ページの「オーディオループバック」をご覧ください。

■ スマートデバイスアプリを使う

楽器に対応したアプリを使うと、もっと便利に楽しめます。特に、「スマートピアニスト」(無料)を使うと、スマートデバイスから本機の操作ができ、大変便利です。本機に対応のアプリや対応するスマートデバイスに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。

<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

ここでは別売の USB 無線 LAN アダプター UD-WL01 を使った接続方法を説明します。その他の接続方法については、「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

USB 無線 LAN アダプター (UD-WL01/別売) を使った接続

USB 無線 LAN アダプター UD-WL01 を使った接続方法は 2 通りあります。

・アクセスポイントモードによる接続

アクセスポイントを経由せずに、無線 LAN アダプターとスマートデバイスを直接接続する方法です。本機と接続できるアクセスポイントがない場合や、スマートデバイスと本機を接続しているときに、ほかのネットワークに接続する必要がない場合に、この方法で接続します。

アクセスポイント

無線 LAN で電波のやりとりを行なうときの基地局となる機器です。ルーターやモデムと一体になっている場合もあります。

1 必要に応じて、本機を初期化します (58 ページ)。

2 UD-WL01 を USB [TO DEVICE] 端子に接続します。

3 スマートデバイスと本機 (アクセスポイント) を接続します。

NOTE

インフラストラクチャーモード(右記参照)からアクセスポイントモードに切り替える場合は、本機を初期化してください。

・インフラストラクチャーモードによる接続 (WPS による接続)

無線 LAN アダプターが、アクセスポイントを経由して、ネットワークに接続する方法です。スマートデバイスを本機と接続しながら、ほかのネットワークにも接続する場合に、この方法で接続します。

1 UD-WL01 を USB [TO DEVICE] 端子に接続します。

2 UD-WL01 の WPS ボタンを 3 秒間長押しします。

ディスプレイに次のように表示され、接続待機状態になります。

UP5

3 手順 2 のあと、2 分以内にお使いのアクセスポイントの WPS ボタンを押します。

NOTE

一度インフラストラクチャーモードで接続したことがある場合は、手順 2、3 を行なわなくても、自動的に接続されます。

■ スマートデバイスのオーディオデータを楽器で鳴らす (Bluetooth オーディオ機能)

本機にはBluetoothオーディオ機能が搭載されていて、スマートデバイスなどのBluetooth対応機器*と接続すると、その機器で再生するオーディオデータを本機から鳴らせます。

*Bluetooth

Bluetoothとは、2.4GHz帯の電波を利用して、約10mの範囲内で、対応する機器と無線で通信を行なうことができる技術です。本書におけるBluetooth対応機器とは、Bluetooth機能を使って、無線でオーディオデータを送信できる機器のことといいます。(例:スマートフォン、携帯オーディオプレーヤーなど)また、この機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。

この機能を使う前に、必ず9ページの「Bluetoothに関するお知らせ」をご覧ください。

Bluetooth対応機器とペアリングする

Bluetoothを使って初めて接続する場合、Bluetooth対応機器と本機をペアリングする必要があります。一度ペアリングした機器は、再度ペアリングの必要はありません。

ペアリング:

Bluetooth対応機器を本機に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

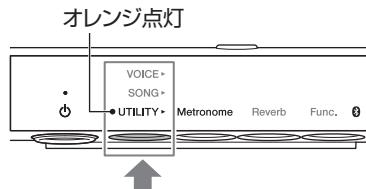
NOTE

- 本機は、最大8台のBluetooth対応機器とペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目の機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器の情報が削除されます。
- ファンクション設定「F8.6」(37ページ)からペアリングすることもできます。ファンクション設定でペアリングモードにしたら、手順3の操作を行なってください。

- 1** メニューボタンを何度か押して、
[UTILITY] ランプをオレンジ色に点灯させ
ます。

NOTE

- Bluetooth機能がオフ(Bluetoothランプが消灯)のときは、ペアリングの操作を行なっても接続できません。設定をオンに切り替えてから操作してください(57ページ)。
- Bluetooth対応機器が接続されていない場合、Bluetoothランプは、UTILITYでは白色に点灯し、VOICE/SONGでは消灯します。

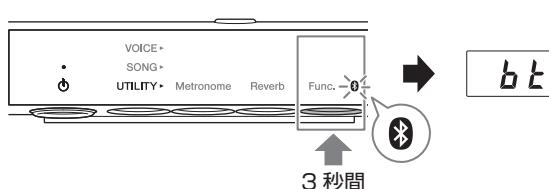


- 2** ボタン3 [Func.] を3秒間長押しします。

本機がペアリングモード(ペアリング待機状態)になり、コントロールパネル前面のBluetoothランプが青色で点滅します。ディスプレイには「bt」と表示されます。

NOTE

「bt」の表示中に、ボタン3 [Func.]を押すと、ペアリングを中止できます。



- 3** Bluetooth対応機器のBluetooth機能をオンにして、接続リストから本機のモデル名「YAMAHA_SH2_TA2」を選択します。

詳しい操作方法は、Bluetooth対応機器の取扱説明書をご覧ください。

ペアリングが完了すると、Bluetoothランプが青色で点灯し、「bt」の表示が消えます。

NOTE

- Bluetooth対応機器側の設定は、5分以内に行ってください。5分を経過すると、ペアリングモードが自動的に終了し、Bluetoothランプが消えます。
- パスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

4

Bluetooth対応機器でオーディオデータを再生し、本機から音が出ることを確認します。

次に本機の電源を入れたとき、本機とBluetooth対応機器のBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続した機器と自動で接続します。自動で接続できない場合は、Bluetooth対応機器の接続リストから再度モデル名を選択してください。

NOTE

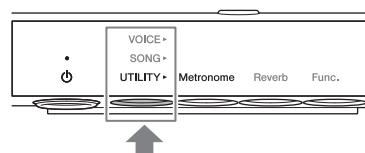
Bluetooth対応機器からの入力音の音量は、本機の[VOLUME]つまみで調節できます。鍵盤演奏とバランスを調整したい場合は、Bluetooth対応機器側で音量を調節してください。

Bluetooth機能のオン / オフを切り替える

本機の初期設定では、Bluetooth機能がオン(On)に設定されていますが、接続を解除したいときや、もう一度接続し直したいときはオフにできます。

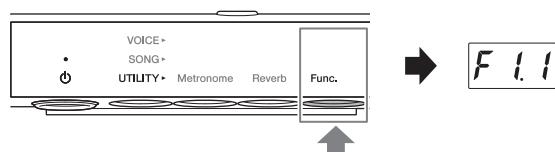
1

メニューボタンをくり返し押して、[UTILITY]ランプをオレンジ色に点灯させます。



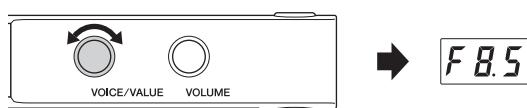
2

ボタン3 [Func.]を押してファンクション設定に入ります。



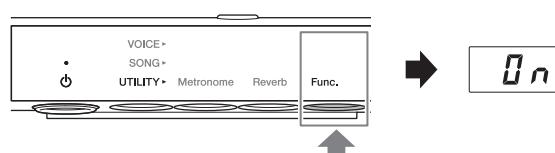
3

[VOICE/VALUE]つまみを回して「F8.5」を選びます。



4

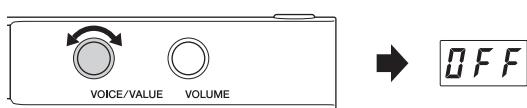
ボタン3 [Func.]を押して設定値を表示させます。



5

[VOICE/VALUE]つまみを回して「On」または「Off」を切り替えます。

ファンクション設定から抜けるには、ボタン3以外のボタンを押します。



設定を工場出荷時の状態に戻す

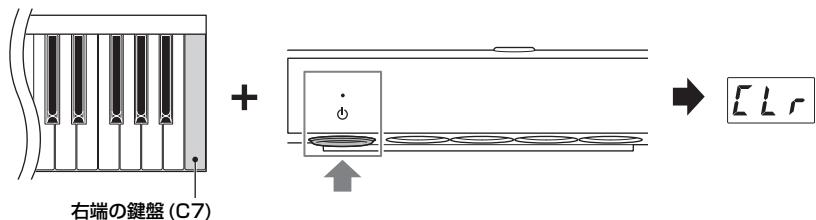
■ バックアップデータ

下記のデータは、本機の内蔵メモリーに自動的に保存(バックアップ)されます。これらのバックアップデータと、内蔵メモリーに保存されたユーザーソングや外部ソングは、電源を切っても記憶されています。

・ ブリリアンス	38 ページ
・ トランスマコースティックの音響補正	38 ページ
・ トランスマコースティックの音色調整(低域、中域、高域)	38 ページ
・ IAC のオン / オフ	38 ページ
・ IAC のかかり具合	39 ページ
・ タッチ感度	39 ページ
・ 固定ベロシティ	39 ページ
・ マスターチューニング	40 ページ
・ メトロノーム音量	41 ページ
・ MIDI ソング再生と鍵盤演奏の音量バランス	41 ページ
・ ハーフペダルの位置	42 ページ
・ オーディオソングの再生音量	42 ページ
・ バイノーラル機能のオン / オフ	43 ページ
・ VRM のオン / オフ	43 ページ
・ MIDI 送信チャンネル	45 ページ
・ オートパワー機能のオン / オフ	46 ページ
・ AUX IN ノイズゲートのオン / オフ	47 ページ
・ オーディオ入力のループバック	47 ページ
・ Bluetooth 機能のオン / オフ	48 ページ
・ Bluetooth のペアリング情報	56 ページ
・ 文字種の設定	59 ページ

■ 本機の初期化(バックアップデータの消去)

右端の鍵盤(C7)を押したまま[**⊕**](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。
「CLR」がディスプレイに表示され、文字種の設定とBluetoothのペアリング情報を除くすべてのバックアップデータが工場出荷時の値に戻ります。ユーザーソングや外部ソングは初期化されません。



注記

「CLR」が表示されている間は電源を切らないでください。ユーザーソングや外部ソング、や内蔵メモリーが壊れるおそれがあります。

NOTE

本機が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、いったん電源を切り、初期化を行なってください。

ファイル名に対応する文字種の設定をする

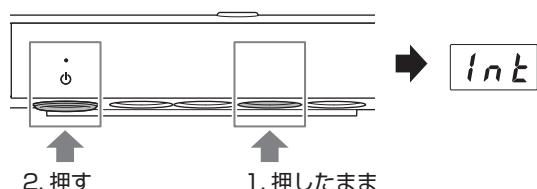
本機でソングデータが読み込めない場合は、ファイル名やフォルダ名の文字種に対応した設定に変更する必要があります。

設定範囲	Int (International)	アルファベットやウムラウトを使ったフォルダ名/ファイル名を読み込みます。日本語は読み込めません。
	JA (Japanese)	日本語やアルファベットを使ったフォルダ名/ファイル名を読み込みます。ウムラウトは読み込めません。
初期設定	JA	

■ 設定を International にするときは

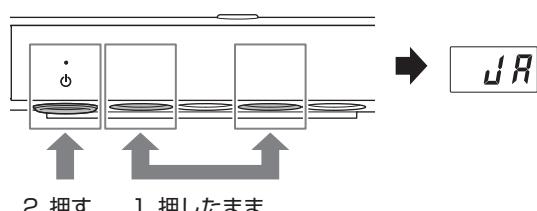
ボタン2を押したまま、[**⊕**](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

「Int」がディスプレイに表示され、設定が International になります。



■ 設定を Japanese にするときは

メニュー ボタンとボタン2を押したまま、[**⊕**](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。
「JA」がディスプレイに表示され、設定が Japanese になります。



NOTE

本機の電源を切っても、この設定は保持されます。

メッセージ一覧

メッセージ	内容
BT	本機とスマートデバイスをBluetooth接続するため、ペアリングモード(待機状態)になっています。このメッセージが表示されているときは、本機の操作ができません。
CLR	本機を初期化しています。電源を切らないでください。
CON	本機をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを、または、本機をiPhone/iPadなどのスマートデバイスと接続してスマートピアニストなどのアプリを使用しています。このメッセージが表示されているときは、本機の操作ができません。
E01	文字種の設定(59ページ)が、選択しようとしているソングのファイル名に合っていません。言語を切り替えてください。
	本機では対応していないデータ形式です。または、データに問題があるため選択できません。
	USBフラッシュメモリーが見つかりません。または、USBフラッシュメモリーに異常が発生しました。USBフラッシュメモリーを接続し直してから、操作を実行してください。ほかに問題がないのに、このメッセージがくり返し表示される場合は、USBフラッシュメモリーが壊れている可能性があります。
	本機でコピー、または削除できないソングが選ばれています。コンピューター上でコピー、削除してください。
	コピー先のUSBフラッシュメモリーの容量やファイル数がいっぱいです。USBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除してください。
E02	USBフラッシュメモリーにプロテクトがかかっています。
E03	USBフラッシュメモリーの空き容量が不足しています。またはファイルやフォルダーの数が制限を超みました。
E04	オーディオソングの再生/録音に失敗しました。録音や削除をくり返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(50ページ)、本機に接続してください。
EE1	本機に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
EEE	本機に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
End	処理が終わりました。
EnP	本機の内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量が少なくなりました。録音を始める前に不要なファイルを削除(30ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。
FUL	本機の内蔵メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量が不足してするため、データの処理ができませんでした。録音中にこのメッセージが表示されたときは、演奏データが正しく保存されない場合があります。
NY	操作を実行しますか？
Pro	プロテクトがかかっているソングのため、データの削除や上書きはできません。
UnF	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーが接続されています。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(50ページ)。

メッセージ	内容
UOC	USBフラッシュメモリーに過電流が流れたため、USBフラッシュメモリーとの通信を停止しました。USBフラッシュメモリーをUSB [TO DEVICE]端子から抜き、本機の電源を入れ直してください。
UOI	USBフラッシュメモリーにアクセスできません。USBフラッシュメモリーをいったん外し、接続し直してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、別のUSBフラッシュメモリーをお使いください。
UU2	接続されたUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使えません。または接続できるUSBフラッシュメモリーの数が制限を超えるました。「USBフラッシュメモリーの取り扱いについて」をご覧ください(49ページ)。
UPS	本機とスマートデバイスをWPS接続するため、待機状態になっています。このメッセージの表示中は、本機の操作ができません。
U.P.S.	WPS接続(55ページ)待機中に異常が発生しました。UD-WL01(別売)を挿し直して、再度接続してください。

* 処理中(データの保存中や送信中など)は、「-」 → 「--」 → 「---」 → 「-」 …と表示されます。

* メッセージを消すには、いずれかのボタンを押してください。

故障かな？と思ったら

本機が正常に動作しない場合は、以下の項目をご確認ください。下記を試しても改善されなかったり、下記以外の異常がある場合は、巻末のお問い合わせ先にご連絡ください。ご自分で本機の内部を開けたり、分解、改造したりしないでください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電源プラグが正しく接続されていません。	電源プラグを家庭用コンセント(AC100V)に確実に差し込んでください(14ページ)。
電源が勝手に切れる。	オートパワーオフ機能が働いたためです。	必要に応じて、オートパワーオフ機能を無効にしてください(15ページ、46ページ)。
電源を入れても音が出ない。	[VOLUME]つまみがいちばん左まで回してあります。	適切な音量に調節してください(17、19ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(45ページ)。
トランスマコースティックモード/サイレントピアノモードでの演奏時にもアコースティックピアノの音が出る。	極度に強く打鍵すると、アコースティックピアノの音が出ることがあります。	打鍵の強さを加減してください。
付属のヘッドフォンと市販のヘッドフォンでは、音のバランスや音量が異なる。	ヘッドフォンの特性はそれぞれ異なるため、異なるヘッドフォンで聞くと、音のバランスや音量が異なることがあります。	なるべく同じ仕様のものをお使いください。
サイレントピアノモード/トランスマコースティックモードでの演奏時にピアノの本体から「カタカタ」という音がする。	故障ではありません。アコースティックピアノ本来の打鍵音です。	
サイレントピアノモード/トランスマコースティックモード/レイヤーモードでの連打時に演奏と異なる強音が発音する。	故障ではありません。トランスマコースティックピアノの構造により、この音が発生する場合があります。	
電子音が正常に発音されない、ばらつきがある。	電源を入れたときに鍵盤が押されていたため、鍵盤の位置が誤って検出されています。	いったん電源を切り、鍵盤が押されていないことを確認したうえで、再度電源を入れてください。
リバーブがかからない。	リバーブの深さが最小に設定されています。	適度なリバーブがかかるように、リバーブの深さを設定してください(34ページ)。
音が残りすぎる(リバーブがかかりすぎる)。	リバーブの深さまたはダンパーレゾナンスのかかり具合が極端に大きく設定されています。	適度な設定に変更してください(34ページ、44ページ)。
ヘッドフォンやスピーカーから雑音が出る。	本機の近くで携帯電話を使うと、雑音が発生する場合があります。	携帯電話の電源を切るか、本機から離れた場所でお使いください。
	ヘッドフォンまたはスピーカーが正しく接続されていません。	対応する端子にヘッドフォンまたはスピーカーを確実に接続してください(15ページ、51ページ)。
	iPhone/iPadなどのスマートデバイスと本機と一緒に使っています。	通信によるノイズを避けるため、機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
ほかの楽器と音の高さが合わない。	楽器により音の高さは異なります。	本機の音の高さを調整して、ほかの楽器に合わせてください(40ページ)。

症状	原因	対策
Bluetooth対応のスマートデバイスがペアリング、または接続できない。	本機のBluetooth機能がオフになっています。	本機のBluetooth機能をオンにしてください(57ページ)。
	本機とスマートデバイスがペアリングできていません	Bluetooth経由で接続するため、はじめに機器同士をペアリングしてください(56ページ)。
	スマートデバイスのBluetooth機能が無効になっています。	スマートデバイスのBluetooth機能が有効か確認してください。
	本機とスマートデバイスの距離が離れすぎています。	スマートデバイスを本機に近づけてください。
	2.4 GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにあります。	電磁波を発するものから本機を離してください。
Bluetoothから入力した音が途切れる。	スマートデバイス側の音量(出力レベル)が小さく、入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)で小さな音がカットされることがあります。	スマートデバイス側の音量を上げてください。本機から出す音量の調節は、[VOLUME]つまみで行なってください。
[AUX IN]端子から入力した音が途切れる。	[AUX IN]端子に接続した機器の音量(出力レベル)が小さく、入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)で小さな音がカットされることがあります。	下記対応を行なってください。 ・[AUX IN]端子に接続した機器側の音量を上げてください。本機から出す音量の調節は、[VOLUME]つまみで行なってください。 ・ノイズゲートをオフに設定してください(47ページ)。

*メッセージ一覧(60ページ)もご参照ください。

音色一覧

表中の○は、その音色に下記のような特徴があることを示しています。

- ・**ステレオサンプリング**: ステレオサンプリングされた音色です。
- ・**タッチ感度**: 鍵盤を弾く強さに応じて、音の強弱の付き方(タッチ感度)が変わります。
- ・**キーオフサンプリング**: キーオフ音(鍵盤を離したときの微妙な発音)がサンプリングされた音色です。
- ・**VRM**: ダンパーペダルを踏んだときや鍵盤を押されたときの弦の共鳴音を物理モデルによりシミュレーションしたもので、この効果を付けるかどうかを設定できます。詳しくは43ページをご覧ください。

音色の種類	説明	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	VRM	
ピアノ						
PF 1	バイノーラル CFXグランド	ヤマハコンサートグランドピアノCFXをヘッドフォン再生に適するようにバイノーラルサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。バイノーラル(43ページ)の設定がオンのときに演奏できます。	○	○	○	○
	CFXグランド	ヤマハコンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。バイノーラル(43ページ)の設定がオフのときに演奏できます。	○	○	○	○
PF 2	ベーゼンドルファーインペリアル	ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアルの音色です。ピアノの大きさを感じさせる広がりある音が特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。	○	○	○	○
PF 3	アップライトピアノ	ヤマハアップライトピアノSU7をサンプリングした個性的な音です。アップライトピアノ特有の軽快な音色をお楽しみください。	○	○	×	○
PF 4	ポップグランド	すこし明るめなグランドピアノの音です。ポピュラー系の音楽に最適です。	○	○	○	○
PF 5	バラードグランド	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に最適です。	○	○	○	○
エレピ						
EP 1	ステージエレピ	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。	×	○	○	×
EP 2	DX エレピ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。	×	○	×	×
EP 3	ピンテージエレピ	ステージエレピと異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。	×	○	○	×

音色の種類	説明		ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	VRM
ハープシコード						
H51	ハープシコード 8'	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化ではなく、鍵盤を離したときには独特的な発音があります。	○	×	○	×
H52	ハープシコード 8'+4'	グランドハープからサンプリングされた音です。明るいアタックを持ったこの音は、華やかなフレーズが合います。	○	×	○	×
H53	チェレスタ	チェレスタ(鍵盤を弾くと、ハンマーが金属製の音板をたたいて音を出す打楽器)の音です。チャイコフスキーの組曲「くるみ割り人形」の「こんぺいとうの踊り」での印象的なフレーズが有名です。	○	○	×	×
オルガン						
Or1	オルガン プリンシパル	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。	○	×	×	×
Or2	オルガン トゥッティ	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカabraの音です。	○	×	×	×
Or3	ジャズオルガン	歯車回転式電気オルガンの音です。ロータリーSP効果込の豪華なサンプリング音色です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。	×	×	×	×
パッド						
Pd1	ストリングス	ステレオサンプリングでリアルな立ち上がりや響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。	○	○	×	×
Pd2	クワイア	空間に広がる心和む合唱の音です。スローナ曲で和音の広がりが得られます。	○	○	×	×
Pd3	シンセパッド	温かくメローで広がりのあるシンセ音色です。	×	○	×	×
レイヤー						
L41	ピアノ +ストリングス	ピアノと弦楽アンサンブルの音を組み合わせた音色です。オーケストラをバックにピアノを演奏する雰囲気を味わうことができます。	○	○	○	×
L42	ピアノ+パッド	ピアノとシンセパッドの音を組み合わせた音色です。	○	○	○	×
L43	ピアノ +DXエレピ	ピアノとDXエレピの音を組み合わせた音色です。	○	○	○	×

ソング一覧

■ デモソング

No.	ボイス名	曲名	作曲者
d.01	CFXグランド	献呈	F. リスト / R. シューマン
	バイノーラル CFXグランド		
d.02	ベーゼンドルファー インペリアル	乙女の願い (6つのポーランドの歌)	F. リスト / F. F. ショパン
d.03	アップライト ピアノ	イタリア協奏曲 第1楽章	J. S. バッハ
d.04	ポップ グランド	オリジナル	—
d.05	バラード グランド	オリジナル	—
d.06	ステージ エレピ	オリジナル	—
d.07	DX エレピ	オリジナル	—
d.08	ビンテージ エレピ	オリジナル	—
d.09	ハープシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番	J. S. バッハ
d.10	ハープシコード 8'+4'	フランス組曲 第5番 ジーグ	J. S. バッハ
d.11	チェレスタ	金平糖の踊り (くるみ割り人形)	P. I. チャイコフスキイ
d.12	オルガン プリンシパル	神のひとり子なる主キリスト (オルガン小曲集)	J. S. バッハ
d.13	オルガン トゥッティ	オリジナル	—
d.14	ジャズ オルガン	オリジナル	—
d.15	ストリングス	オリジナル	—
d.16	クワイア	オリジナル	—
d.17	シンセ パッド	オリジナル	—
d.18	ピアノ+ストリングス	オリジナル	—
d.19	ピアノ+パッド	オリジナル	—
d.20	ピアノ+DXエレピ	オリジナル	—

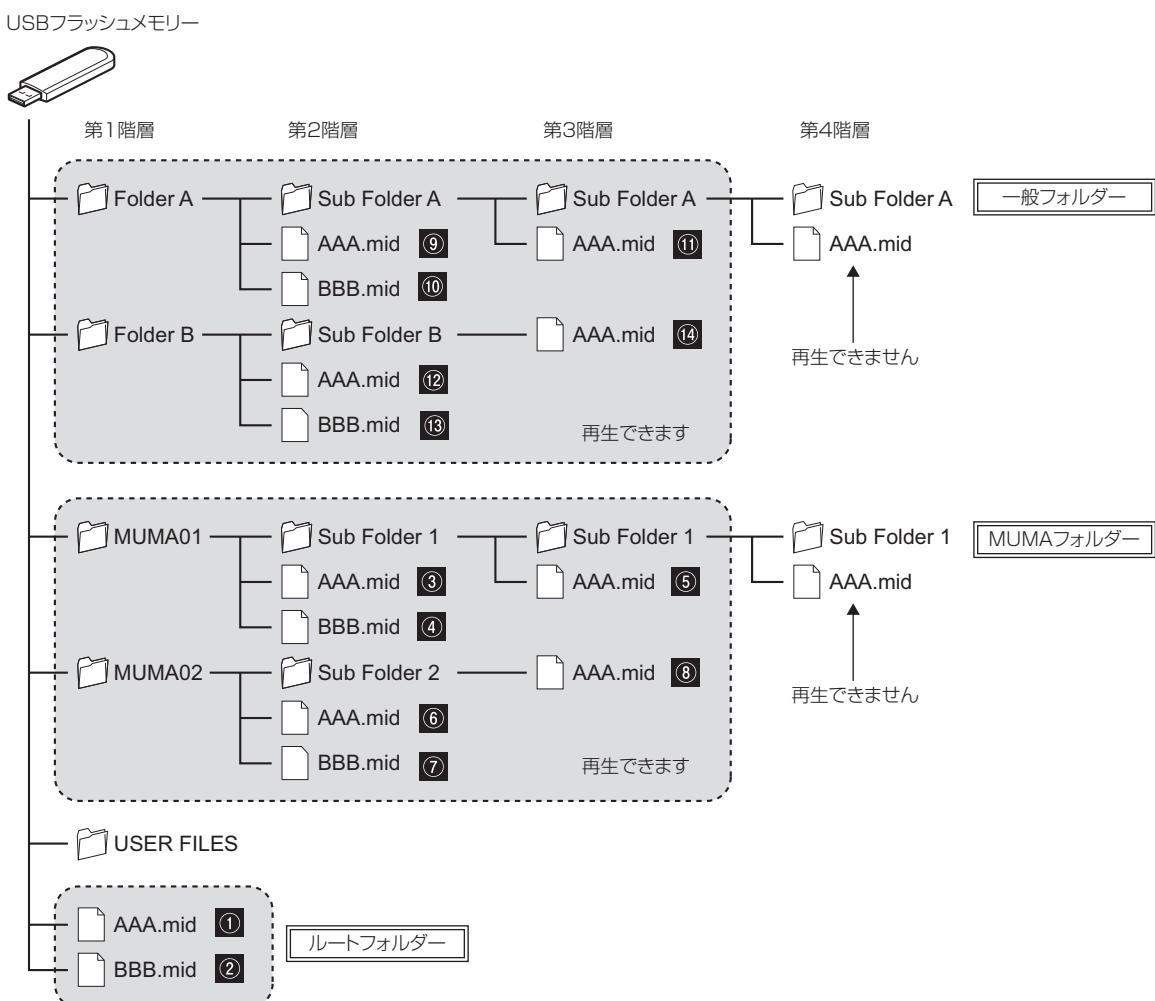
■ プリセットソング

No.	曲名	作曲者
アレンジ曲		
P.01	カノン	J. パッヘルベル
P.02	G線上のアリア	J. S. バッハ
P.03	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
P.04	きらきら星	トラディショナル
P.05	ピアノソナタ 第17番「テンペスト」第3楽章	L. v. ベートーヴェン
P.06	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
P.07	子守唄	F. P. シューベルト
P.08	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
P.09	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
P.10	ラ・カンパネラ	F. リスト
P.11	愛のあいさつ	E. エルガー
P.12	家路	A. ドヴォルザーク

No.	曲名	作曲者
P.13	シリエンヌ	G. U. フォーレ
P.14	月の光	C. A. ドビュッシー
P.15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲		
P.16	メヌエット(アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツアルト
P.17	メヌエット ト長調	L. v. ベートーヴェン
P.18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
P.19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
P.20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
P.21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
P.22	メヌエット ト長調	J. S. バッハ
P.23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツアルト
P.24	トルコ行進曲	W. A. モーツアルト
P.25	ピアノソナタ 第8番 「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
P.26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
P.27	ピアノソナタ 第14番 「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
P.28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
P.29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
P.30	幻想即興曲	F. F. ショパン
P.31	別れの曲	F. F. ショパン
P.32	革命のエチュード	F. F. ショパン
P.33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
P.34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
P.35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
P.36	トロイメライ	R. シューマン
P.37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
P.38	乙女の祈り	T. バダジエフスカ
P.39	愛の夢 第3番	F. リスト
P.40	花の歌	G. ランゲ
P.41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
P.42	アリエッタ	E. H. グリーグ
P.43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
P.44	エンターテイナー	S. ジョプリン
P.45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
P.46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
P.47	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
P.48	ケークウォーク	C. A. ドビュッシー
P.49	ジユトウヴ	E. サティ
P.50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

USBフラッシュメモリーのソングファイルの再生順序

以下はUSBフラッシュメモリーに保存されているソングファイルの再生順序を示したものです。



■ ユーザーソングの再生順序

ユーザーソングはUSER FILES フォルダーに下記の名前で保存されています。

はソング番号です。が小さいソングから順に再生されます。

- USERSONG**.MID (MIDIソング)
- USERAUDIO**.WAV (オーディオソング)

■ 外部ソングの再生順序

順位	フォルダー / ファイル	
1	ルートフォルダー	数字→アルファベット→カナ/かな→漢字の順で再生されます。
2	MUMAフォルダー	
3	一般フォルダー	

NOTE

本機は第3階層より下の階層に保存されたソングファイルを認識しません。コンピューターなどでUSBフラッシュメモリー内のソングファイルを管理する場合は、ソングファイルを第3階層までに保存してください。

仕様

			アップライトピアノ	グランドピアノ
操作子	鍵盤	タッチ感度	ハード、ミディアム/ハード、ミディアム、 ソフト/ミディアム、ソフト、固定	
	ペダル		ダンパー、 消音/ソステヌート ^{*1} 、 ソフト	ダンパー、ソステヌート、 ソフト
	センサー	鍵盤部	非接触 連続検出 光センサー	
		ハンマー	—	非接触2点検出 光ファイバーセンサー
		ダンパーペダル		連続検出
		ソステヌートペダル		オン/オフ検出
		ソフトペダル		オン/オフ検出
消音システム	消音方式		ハンマーシャンクストッパー 方式(消音ペダル/消音レバー ^{*1})	ハンマーシャンクストッパー 方式(電動式)
	アクション		—	クイックエスケープ方式
響板駆動システム	駆動方式		トランスマーケティングTM技術	
音源/音色	音源	ピアノ音源	ヤマハCFXサンプリング、 ベーゼンドルファーインペリアルサンプリング	
		バイノーラル サンプリング	○(「CFXグランド」音色のみ)	
	ピアノ音源の 効果	VRM	○	
		キーオフ サンプリング	○	
		スムースリリース	○	
	最大同時発音数		256	
	プリセット	音色数	20	
	再生用音源		480音色(XG音源) + 12キット(ドラム/SFX)	
効果	タイプ	リバーブ	○	
		ブリリアンス	○	
		ステレオフォニック オブティマイザー	○(「CFXグランド」以外のピアノ音色)	
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	ボイスデモ 20 + クラシック曲 50	
	録音	曲数	10	
		データ容量	約500KB/曲	
	フォーマット	再生	SMF(フォーマット0、フォーマット1)	
		録音	SMF(フォーマット0)	
録音/再生 (オーディオソング)	録音時間(最大)		80分/曲	
	フォーマット	再生	WAV(44.1kHz、16bit、ステレオ)	
		録音	WAV(44.1kHz、16bit、ステレオ)	
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○	
		テンポ	5~500	
		トランスポーズ	-12~0~+12	
		チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz(約0.2 Hz単位)	
	USBオーディオインターフェース		44.1 kHz、16 bit、ステレオ	

			アップライトピアノ	グランドピアノ
ファンクション	Bluetooth接続	Bluetoothバージョン	4.1	
		対応プロファイル	A2DP	
		対応コーデック	SBC	
		無線出力	Bluetooth class 2	
		最大通信距離	約 10 m	
		送信周波数範囲	2,402～2,480 MHz	
		無線最大出力電力	4 dBm	
メモリー/ 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約 1.3MB	
		外付けメモリー	USB フラッシュメモリー	
	接続端子	ヘッドフォン	ステレオミニ端子 (×2)	
		MIDI	IN/OUT	
		AUX IN	ステレオミニ端子	
		AUX OUT	[L/L+R][R](標準フォーン端子)	
		USB TO DEVICE	○	
	USB TO HOST		○	
電源部	定格電源	AC 100V 50/60 Hz		
	消費電力	40 W		
	オートパワーオフ		○	
質量 (ピアノ本体質量を除く)			14 kg	21 kg
付属品			ヘッドフォン、ヘッドフォンハンガー、ヘッドフォンハンガー取り付けネジ、楽譜集「クラシック名曲50選」、取扱説明書	
別売品			USB 無線 LAN アダプター (UD-WL01)、 ワイヤレス MIDI アダプター (UD-BT01/MD-BT01)	

* 1 ソステナートペダル搭載モデルのみ

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

A

AUX IN	52
AUX INノイズゲート	47
AUX OUT	51

B

Bluetooth	48, 56
Bluetoothオーディオ	56

I

IAC	38
-----	----

M

MIDI IN	53
MIDI OUT	53
MIDI送信チャンネル	45
MIDIソング	22
MIDIリファレンス	2
MIDI録音	26

S

SONG	12, 22
------	--------

U

USB [TO DEVICE]	49
USB機器	49
USBフラッシュメモリー	49
UTILITY	12, 32

V

VOICE	12, 20
VRM	43

ア

アクセスポイントモード	55
アリコートレジナンス	44

イ

移調(鍵盤)	40
移調(ソング)	42
イニシャライズ	59
インテリジェント・アコースティック・コントロール	38
インフラストラクチャーモード	55

オ

オーディオソング	22
オーディオループバック	47
オーディオ録音	26
オートパワーオフ	15, 46
音響補正	38
音色	20
音色一覧	21, 64
音色調整	38
音色デモ曲	22, 66
音律(鍵盤)	40
音量(本体)	17, 19
音量(メトロノーム)	41
音量バランス(MIDIソング)	41
音量バランス(オーディオソング)	42

力

外部スピーカー	51
外部ソング	22

キ

キーオフサンプリング	45
キーボードトランスポーズ	40

コ

故障かな?と思ったら	62
固定ペロシティー	39
コピー(ユーザーソング)	28
コントロールユニット	12
コンピューターとつなぐ	2

サ

再生	22
再生順序(ソング)	68
再生テンポ	25
サイレントピアノモード	19
削除(ユーザーソング)	30
残響効果	34

シ

仕様	69
消音演奏	19
消音レバー	11, 19
初期化(USBフラッシュメモリー)	50
初期化(本体)	59

ス

ステレオフォニックオプティマイザー	21
ストリングスレゾナンス	44
スマートデバイス	54
スマートデバイス接続マニュアル	2
スマートピアニスト	10

ソ

送信チャンネル(MIDI)	45
ソング	22
ソング一覧	66
ソングカテゴリー	22
ソングトランスポーズ	42

タ

タッチ感度	39
ダンパーレゾナンス	44

チ

調律(鍵盤)	40
--------	----

テ

デモソング	22, 66
電源	14
テンポ(ソング)	25
テンポ(メトロノーム)	33

ト	
トランスマコースティック	16, 38
トランスマコースティックモード	17
トランスポーズ(鍵盤)	40
トランスポーズ(ソング)	42
ノ	
ノイズゲート(AUX IN)	47
ハ	
バージョン表示	47
バーチャル・レジナンス・モデリング(VRM)	43
ハーフペダル	42
バイノーラル	21, 43
バックアップデータ	58
ヒ	
ピッチ調整(鍵盤)	40
拍子(メトロノーム)	33
フ	
ファームウェアバージョン	47
ファイル操作(ユーザーソング)	28
ファンクション設定	36
フォーマット(USBフラッシュメモリー)	50
付属品	2
プリセットソング	22, 66
ブリリアンス	38
ヘ	
ペアリング(Bluetooth)	48, 56
ペダル	11
ヘッドフォン	15
ヘッドフォンハンガー	15
ホ	
ボディレジナンス	45
ボリューム(本体)	17, 19
ボリューム(メトロノーム)	41
マ	
マスター調節	40
ム	
無線LAN	55
メ	
メッセージ一覧	60
メトロノーム	32
モ	
文字種(ファイル)	59
ユ	
ユーザーソング	22, 28
リ	
リバーブ	34
レ	
レイヤーモード	18
連続再生	23
ロ	
ローカルコントロール(MIDI)	45
録音	26

MEMO

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたお買い上げの日付から1ヵ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効となります。

保証書

保証書をお受け取りのときは、お客様のご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客様に、保証規定に則り、お買い上げの日から向こう1ヵ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮のうえで保管してください。また、後のサービスに際しての機種の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店を紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

満1ヵ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料になりますが、引き続き責任をもってサービスさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

本機についてのお問い合わせは、最寄りのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ

◇ピアノの機能や取り扱い、その他本機全般についてのお問い合わせ

最寄りの特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口

ナビダイヤル **0570-003-808**

上記番号でつながらない場合は053-460-4835へおかけください。

受付時間 月～金 10:00～17:00（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の定休日を除く）

<http://jp.yamaha.com/support/>

◇ピアノの修理についてのお問い合わせ

お買い上げ店、または下記ヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル **0570-012-808**

上記番号でつながらない場合は053-460-4830へおかけください。

受付時間 月～金 10:00～17:00（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の定休日を除く）

名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

上記お問い合わせ先は、日本国内でご購入いただいたお客様専用です。日本語のみのご案内になりますので、あらかじめご了承ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年7月発行 MW-A0

YJ705A0